

データヘルス計画 第2期計画書

最終更新日：平成 30 年 02 月 16 日

仙台卸商健康保険組合

STEP 1 - 1 基本情報

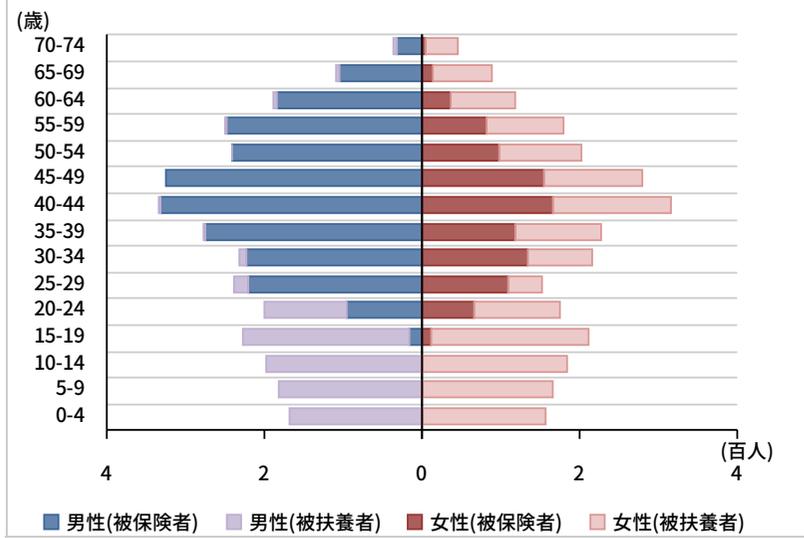
組合コード	14216		
組合名称	仙台卸商健康保険組合		
形態	総合		
業種	卸売業		
	平成30年度見込み	平成31年度見込み	平成32年度見込み
被保険者数 * 平均年齢は 特例退職被保 険者を除く	男性70.3% 3,283名 (平均年齢44.6歳) * 女性29.7% (平均年齢41.0歳) *	男性-% -名 (平均年齢-歳) * 女性-% (平均年齢-歳) *	男性-% -名 (平均年齢-歳) * 女性-% (平均年齢-歳) *
特例退職被保険者数	0名	-名	-名
加入者数	5,918名	-名	-名
適用事業所数	72カ所	-カ所	-カ所
対象となる拠点数	208カ所	-カ所	-カ所
保険料率 *調整を含む	104.0% ₀₀	-% ₀₀	-% ₀₀

		健康保険組合と事業主側の医療専門職					
		平成30年度見込み		平成31年度見込み		平成32年度見込み	
		常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)
健保組合	顧問医	0	0	-	-	-	-
	保健師等	0	0	-	-	-	-
事業主	産業医	0	14	-	-	-	-
	保健師等	0	0	-	-	-	-

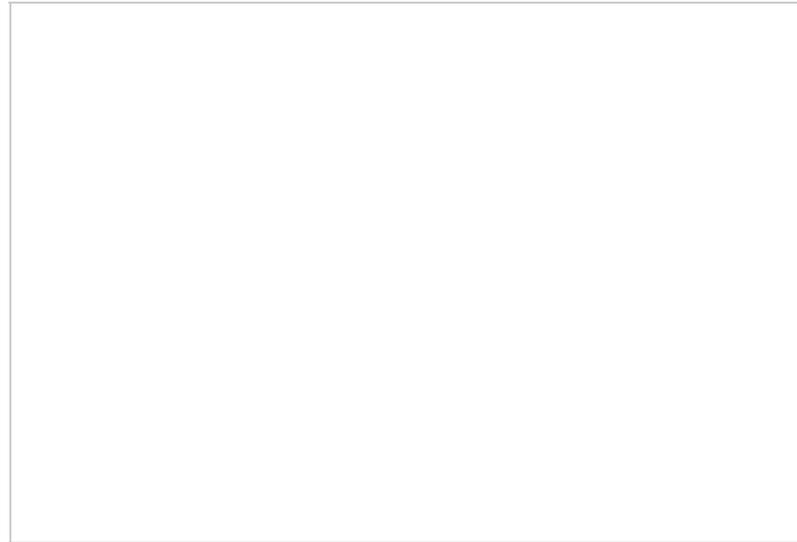
		第2期における基礎数値	
特定健康診査実施率 (特定健康診査実施者数 ÷ 特定健康診査対象者数)	全体	1,847 / 2,599 = 71.1 %	
	被保険者	1,668 / 1,922 = 86.8 %	
	被扶養者	179 / 677 = 26.4 %	
特定保健指導実施率 (特定保健指導実施者数 ÷ 特定保健指導対象者数)	全体	17 / 406 = 4.2 %	
	被保険者	17 / 388 = 4.4 %	
	被扶養者	0 / 18 = 0.0 %	

		平成30年度見込み		平成31年度見込み		平成32年度見込み	
		予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)
保健事業費	特定健康診査事業費	2,360	719	-	-	-	-
	特定保健指導事業費	1,372	418	-	-	-	-
	保健指導宣伝費	2,080	634	-	-	-	-
	疾病予防費	25,821	7,865	-	-	-	-
	体育奨励費	0	0	-	-	-	-
	直営保養所費	0	0	-	-	-	-
	その他	3,860	1,176	-	-	-	-
	小計 …a	35,493	10,811	0	-	0	-
経常支出合計 …b	1,730,609	527,143	-	-	-	-	
a/b×100 (%)	2.05		-		-		

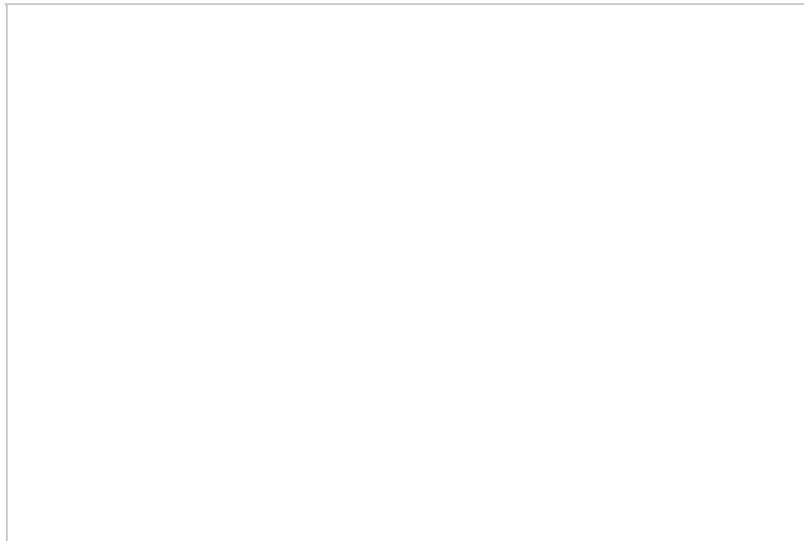
平成30年度見込み



平成31年度見込み



平成32年度見込み



男性（被保険者）

平成30年度見込み				平成31年度見込み				平成32年度見込み			
0～4	0人	5～9	0人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	0人	15～19	15人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	95人	25～29	220人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	222人	35～39	276人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	331人	45～49	326人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	240人	55～59	248人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	184人	65～69	104人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	32人			70～74	-人			70～74	-人		

女性（被保険者）

平成30年度見込み				平成31年度見込み				平成32年度見込み			
0～4	0人	5～9	0人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	0人	15～19	11人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	66人	25～29	110人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	133人	35～39	118人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	165人	45～49	154人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	97人	55～59	82人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	36人	65～69	14人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	4人			70～74	-人			70～74	-人		

男性（被扶養者）

平成30年度見込み				平成31年度見込み				平成32年度見込み			
0～4	169人	5～9	182人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	198人	15～19	212人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	105人	25～29	18人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	8人	35～39	3人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	3人	45～49	0人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	1人	55～59	2人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	4人	65～69	4人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	4人			70～74	-人			70～74	-人		

女性（被扶養者）

平成30年度見込み				平成31年度見込み				平成32年度見込み			
0～4	156人	5～9	166人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	183人	15～19	199人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	109人	25～29	43人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	82人	35～39	110人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	149人	45～49	126人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	104人	55～59	98人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	81人	65～69	76人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	40人			70～74	-人			70～74	-人		

基本情報から見える特徴

- 1.小規模な健康保険組合(被保険者数3千3百人、加入者数6千人弱)である。
- 2.主な業種は卸売業で、職種は営業・事務、製造・配送、販売・接客など多岐に亘っている。
- 3.1事業所当たりの被保険者数は約45人、事業所規模は1桁から700人超と様々である。
- 4.ほとんどの適用事業所が卸商団地内に所在となっている。
- 5.多くの事業所が県内外に支店や営業所を有している。
- 6.年齢分布は、最頻値が40歳代前半となっており、男性・女性とも平均年齢の上昇傾向が続いている。
- 7.健保組合に医療専門職がない。

STEP 1 - 2 保健事業の実施状況

保健事業の整理から見える特徴

被扶養者の特定健診の受診率が目標値に達せず低調となっている。
 特定健診等の対象年齢以下の者への生活習慣病予防の支援が不足している。
 特定保健指導の実施率が目標値に達せず低調となっている。

職場環境の整備

加入者への意識づけ

- 1 受療勧奨情報提供事業
- 2 重症化予防情報提供事業
- 3 特定保健指導利用勧奨事業

個別の事業

- 1 特定健診(被保険者)
- 2 特定健診 (被扶養者・任意継続被保険者)
- 3 特定保健指導
- 4 新生児育児図書への配付
- 5 生活習慣病予防健診
- 6 日帰り人間ドック
- 7 乳がん検診
- 8 子宮がん検診
- 9 PETがん検査
- 10 肺がん検診
- 11 脳検診
- 12 肝炎ウイルス検査
- 13 前立腺がん検査
- 14 インフルエンザ予防接種
- 15 ジェネリック医薬品差額通知
- 16 精密検査補助事業

事業主の取組

- 1 その他

【 健保組合の取組 】 職場環境の整備

【 健保組合の取組 】 加入者への意識づけ

No.	内容			
1	事業名	受療勧奨情報提供事業		
	予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】 健診結果が「要治療」の者が本事業の情報提供を受け、医療機関を受診する等の行動をとり、生活習慣病の重症化予防を目指す。 【概要】 健診結果が「要治療」の者を抽出し、健診後6ヵ月間レセプトがない者へ医療機関への受療勧奨を実施する。
	事業分類	2-イ, 4-イ		
	事業費(千円)	50 千円	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 対象者分類 全員 年齢 35～74
	振り返り	実施状況・時期 29年度 実施者：65人 成功・推進要因 - 課題及び阻害要因 情報提供の内容について、受療するという行動変容に結びつくのか→改善の余地有り。		
評価	4 . 80%以上			

No.	内容			
2	事業名	重症化予防情報提供事業		
	予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】 健診結果が「要経過観察」等軽度異常者が本事業の情報提供を受け、生活習慣改善等が必要であることを認識し、生活習慣病の重症化予防に取り組むことを目指す。 【概要】 健診結果から「要経過観察」等軽度異常の者のうち、悪化傾向や一定以上の数値の者を抽出し、生活習慣改善に向けた情報提供を行う。
	事業分類	2-ア		
	事業費(千円)	195 千円	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 対象者分類 全員 年齢 35～74
	振り返り	実施状況・時期 29年度 糖尿病高リスク者:163人 高血圧症高リスク者:87人 脂質異常症高リスク者:192人 成功・推進要因 - 課題及び阻害要因 対象が健診結果軽度異常の者であり、自身の状態についての確な認識を促すには内容が弱い→改善の余地有り。		
評価	4 . 80%以上			

No.	内容			
3	事業名	特定保健指導利用勧奨事業		
	予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	<p>【目的】 特定保健指導の対象となったものの利用実績がない者へ、保健指導の概要やその必要性、メリット等を情報提供し、指導を受けるよう促す。</p> <p>【概要】 特定保健指導の対象に複数回該当し利用実績がない者を抽出し、特定保健指導を利用するよう個人宛に情報提供を行う。</p>
	事業分類	2-イ		
	事業費(千円)	50 千円	対象者	<p>資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 対象者分類 全員</p> <p>年齢 40～74</p>
	振り返り	<p>実施状況・時期 29年度 実施者:152人</p> <p>成功・推進要因 -</p> <p>課題及び阻害要因</p> <p>特定保健指導を受けなていない要因の分析ができていない中、本人の意識向上による利用を期待していいのか。それ以外の受けやすい環境作り等も必要。</p>		
	評価	4. 80%以上		

【 健保組合の取組 】 個別の事業

No.	内容			
1	事業名	特定健診(被保険者)		
	予算科目	特定健康診査事業	事業の目的 および概要	【目的】特定健診の受診率を高め、保健指導が必要な者へその機会を提供し、生活習慣病の予防及び改善を図る。 【概要】生活習慣病予防健診や日帰り人間ドックを受診した者の結果を入手することにより特定健診を実施する。
	事業分類	3-ア		
	事業費(千円)	0千円	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 対象者分類 全員 年齢 40～74
	振り返り	実施状況・時期 28年度 対象者数:1,922人 受診者数:1,668人 成功・推進要因 健診結果表の提出を求め、手入力によるデータ化も実施。 課題及び阻害要因 契約外の健診機関で受診した被保険者の健診結果の受領に漏れがある。		
	評価	4. 80%以上		

No.	内容			
2	事業名	特定健診(被扶養者・任意継続被保険者)		
	予算科目	特定健康診査事業	事業の目的 および概要	【目的】特定健診の受診率を上げ、保健指導が必要な者へその機会を提供し、生活習慣病の予防及び改善を図る。 【概要】対象となる者へ受診券を発行し、集合契約による健診を実施。
	事業分類	3-ア		
	事業費(千円)	1,898千円	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 対象者分類 全員 年齢 40～74
	振り返り	実施状況・時期 28年度 ・対象者：任継本人37人・被扶養者745人 ・受診者：197人 成功・推進要因 住所地近くの集合契約機関の情報を受診券とともに送付。 課題及び阻害要因 被扶養者の受診率が低い。 健診項目が受診意欲を喚起する内容となっていない。		
	評価	1. 39%以下		

No.	内容			
3	事業名	特定保健指導		
	予算科目	特定保健指導事業	事業の目的 および概要	【目的】初回面談を受ける者を増加させ、途中脱落を防止し、特定保健指導実施率向上及び内臓脂肪症候群該当者・予備群の減少を目指す。 【概要】事業所訪問や契約健診機関において健診当日の初回面談を実施し、内臓脂肪症候群該当者、予備群へ保健指導を実施。
	事業分類	4-ア		
	事業費(千円)	1,275 千円	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 対象者分類 基準該当者 年齢 40～74
	振り返り	<p>実施状況・時期 28年度 動機付け支援対象者数:142人 実施者数:5人 積極的支援対象者数:265人 実施者数:12人</p> <p>成功・推進要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健診当日の初回面談の導入(一部機関) ・指導対象者個人宛て案内の配付 ・個人単位での実施と事業所単位での実施の2パターンを用意 <p>課題及び阻害要因 制度がスタートしてから内容が変わらず、対象者も一巡しマンネリ化が顕著。 自覚症状の無い状態で、要改善の認識が薄い。 指導を受けないことに対して、ペナルティーが無い。 事業所によっては、特定保健指導について社員への勧奨など消極的。</p>		
評価	1. 39%以下			

No.	内容			
4	事業名	新生児育児図書配付		
	予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】配付冊子を購読することにより、育児に関する不安・ストレスの軽減を図るとともに医療機関への適切な受診を促すことを目指す。 【概要】出版社から毎月育児冊子を対象者宅へ送付する。
	事業分類	5-ウ		
	事業費(千円)	261 千円	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 女性 対象者分類 全員 年齢 0～74

振り返り	実施状況・時期 28年度 配付の実績:60人 実施率:100% 成功・推進要因 出産育児一時金付加金支給決定通知に同事業の案内を同封(死産除く) 申請や申込みの手続が不要 課題及び阻害要因 -
	評価 5 . 100%

No.	内容	
5	事業名	生活習慣病予防健診
	予算科目	疾病予防 事業の目的 および概要
	事業分類	3-ア
	事業費(千円)	19,950 千円 対象者
	振り返り	実施状況・時期 28年度 対象者数:2,401人 受診者数:1,955人 成功・推進要因 健診機関と契約し健診料金の低減を図っている。 卸商団地内の契約健診機関での受診が年中可能。 検診車による事業所敷地内での健診も可能。 課題及び阻害要因 -
評価	4 . 80%以上	

資格 被保険者 **対象事業所** 全て **性別** 男女 **対象者分類** 全員
年齢 35～74

No.	内容	
6	事業名	日帰り人間ドック
	予算科目	疾病予防 事業の目的 および概要
	事業分類	3-ア

【目的】 日帰り人間ドックを受診した者がその結果を健康維持・増進に活かし、重症化予防に努めた結果、生活習慣病関連の医療費が適正化されることを目指す。
【概要】 契約検診機関での受診に際し、補助を実施。それ以外の健診機関等での受診に対しては請求に基づき補助を実施する。

事業費(千円)	1,560 千円	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 対象者分類 全員 年齢 40～65
振り返り	実施状況・時期 28年度 対象者数:580人 受診者数:96人 成功・推進要因 受診に対する補助金制度。 当該年度補助年齢対象者へ個別DMにてお知らせ。 契約健診機関において契約料金で受診可能。 課題及び阻害要因 -		
評価	1. 39%以下		

No.	内容		
7	事業名	乳がん検診	
	予算科目	事業の目的 および概要	【目的】 乳がん検診の受診率を上げ、早期発見・早期治療を図り、高額な医療費の発生を防ぐことを目指す。 【概要】 契約健診機関での受診に際し、補助を実施。それ以外の健診機関での受診に対しては請求に基づき補助を実施する。
	事業分類	3-イ	
	事業費(千円)	421 千円	対象者 資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 女性 対象者分類 全員 年齢 40～74
	振り返り	実施状況・時期 28年度 対象者数:623人 受診者数:138人 成功・推進要因 検診車による集団健診時には同時実施していなかったため、健診施設に赴いて受診する必要があったため、受診者数が少なかった。 卸商団地内に健診機関ができたことにより、受診者数が増加傾向にある。 人間ドック対象者宛てDM内において、乳がん検診補助を記載。 課題及び阻害要因 -	
	評価	1. 39%以下	

No.	内容		
8	事業名	子宮がん検診	

予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】子宮がん検診の受診率を上げ、早期発見・早期治療により高額な医療費の発生を防ぐことを目指す。 【概要】契約健診機関での受診に際し、補助を実施。それ以外の健診機関での受診に対しては請求に基づき補助を実施する。
事業分類	3-イ		
事業費(千円)	256千円	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 女性 対象者分類 基準該当者 年齢 20～74
振り返り	実施状況・時期 28年度 対象者数:1,093人 受診者数:201人 成功・推進要因 - 課題及び阻害要因 -		
評価	1. 39%以下		

No.	内容			
9	事業名	PETがん検査		
	予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】PET検査の受診促進を図り、がんの早期発見・早期治療により高額な医療費の発生を防ぐことを目指す。 【概要】契約健診機関での受診に際し、補助を実施。それ以外の健診機関での受診に対しては請求に基づき補助を実施する。
	事業分類	3-イ		
	事業費(千円)	100千円	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 対象者分類 全員 年齢 50～74
	振り返り	実施状況・時期 28年度 対象者数:988人 受診者数:4人 成功・推進要因 人間ドック対象者宛てDM内において、PET検査補助制度について記載。 課題及び阻害要因 -		
	評価	1. 39%以下		

No.	内容			
10	事業名	肺がん検診		

予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】肺がん検診の受診率を上げ、早期発見・早期治療により高額な医療費の発生を防ぐことを目指す。 【概要】契約健診機関での受診に際し、補助を実施。それ以外の健診機関での受診に対しては請求に基づき補助を実施する。
事業分類	3-イ		
事業費(千円)	35千円	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 対象者分類 全員 年齢 40～74
振り返り	実施状況・時期 28年度 対象者数:2,669人 受診者数:9人 成功・推進要因 人間ドック対象者宛てDM内において、肺がん検査補助について記載。 課題及び阻害要因 -		
評価	1. 39%以下		

No.	内容			
11	事業名	脳検診		
	予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】脳検診の受診率を上げ、脳血管疾患の早期発見・早期治療により高額な医療費の発生を防ぐことを目指す。 【概要】契約健診機関での受診に際し、補助を実施。それ以外の健診機関での受診に対しては請求に基づき補助を実施する。
	事業分類	3-ア		
	事業費(千円)	100千円	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 対象者分類 全員 年齢 50～74
	振り返り	実施状況・時期 28年度 対象者数:988人 受診者数:18人 成功・推進要因 人間ドック補助対象者宛てDM内において、脳検診補助について記載。 課題及び阻害要因 -		
	評価	1. 39%以下		

No.	内容			
12	事業名	肝炎ウイルス検査		

予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】 肝炎ウイルス感染の早期発見・早期治療により重篤化及び高額な医療費の発生を防ぐことを目指す。 【概要】 契約健診機関での受診に際し、補助を実施。それ以外の健診機関での受診に対しては請求に基づき補助を実施する。
事業分類	3-オ		
事業費(千円)	45 千円	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 対象者分類 全員 年齢 35～74
振り返り	実施状況・時期 28年度 対象者:2,401人 受診者:8人 成功・推進要因 - 課題及び阻害要因 -		
評価	1. 39%以下		

No.	内容			
13	事業名	前立腺がん検査		
	予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】 前立腺がんの早期発見・早期治療により重篤化及び高額な医療費の発生を防ぐことを目指す。 【概要】 契約健診機関での受診に際し、補助を実施。それ以外の健診機関での受診に対しては請求に基づき補助を実施する。
	事業分類	3-イ		
	事業費(千円)	270 千円	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男性 対象者分類 全員 年齢 50～74
	振り返り	実施状況・時期 28年度 対象者:533人 受診者:337人 成功・推進要因 - 課題及び阻害要因 -		
	評価	2. 40%以上		

No.	内容			
14	事業名	インフルエンザ予防接種		

予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】インフルエンザワクチンの接種率を上げ、インフルエンザ罹患時に重症化を防ぐために実施する。 【概要】契約健診機関にて予防接種を実施し、その際に補助を行う。多人数の接種希望者がいる事業所には訪問による接種を実施。契約外医療機関での接種に対しては請求に基づき補助を実施する。
事業分類	3-オ		
事業費(千円)	1,300 千円	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 対象者分類 全員 年齢 18～74
振り返り	実施状況・時期 28年度 接種者:1,285人 施設内接種:465人 事業所巡回:404人 補助金請求:416人 申請による補助:416人 成功・推進要因 予防接種を受ける機会の確保。 課題及び阻害要因 -		
評価	1. 39%以下		

No.	内容		
15	事業名	ジェネリック医薬品差額通知	
	予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要
	事業分類	8-ウ	
	事業費(千円)	20 千円	対象者
	振り返り	実施状況・時期 28年度(10～12月診療分) 実績:127人に対し通知を送付 被保険者:52人 被扶養者:75人 削減可能額:500円以上/1ヶ月 成功・推進要因 - 課題及び阻害要因 -	
	評価	4. 80%以上	
			資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 対象者分類 基準該当者 年齢 0～74

No.	内容
-----	----

16	事業名	精密検査補助事業		
	予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	<p>【目的】精密検査補助制度により受診を促し、重症化を予防・早期治療により高額な医療費の発生を防ぐことを目指す。</p> <p>【概要】指定医療機関において精密検査を受診する場合に限り、その費用を補助する。</p>
	事業分類	3-ア, 3-イ		
	事業費(千円)	1,700 千円	対象者	<p>資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 対象者分類 全員</p> <p>年齢 35～74</p>
	振り返り	<p>実施状況・時期 -</p> <p>成功・推進要因 -</p> <p>課題及び阻害要因 -</p>		
	評価	-		

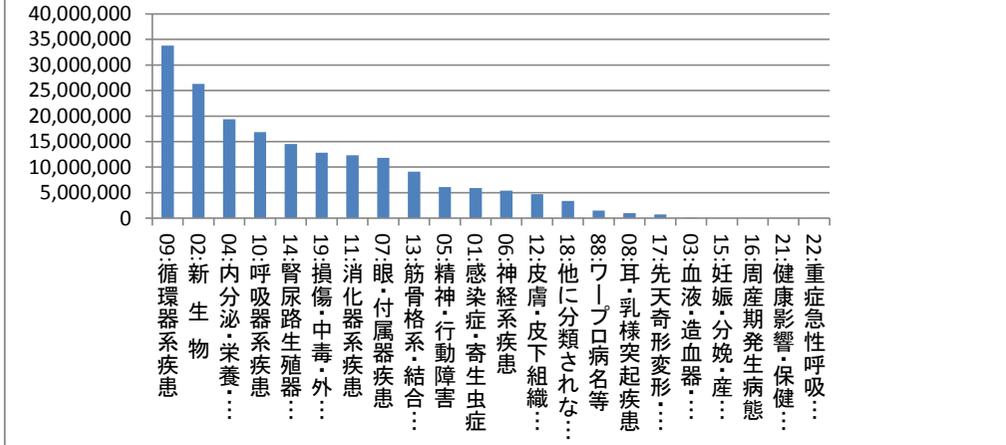
【事業主の取組】

No.	内容	
1	事業名	その他
	事業の目的および概要	- 対象者 資格 - 性別 - 年齢 - ~ -
	振り返り	実施状況・時期 - 成功・推進要因 - 課題及び阻害要因 -
	共同実施	-

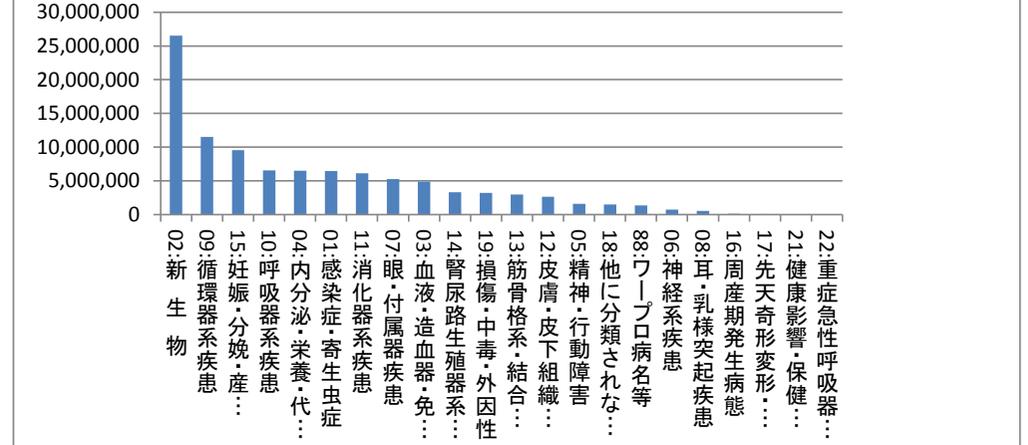
1. 疾病分類別 レセプト単位医療費比較

[2016年度計] × [強制計] × [医科計] × [疾病19分類] × [男性] × [本人] × [全組合計]

2016 医療費総額(男性)



2016 医療費総額(女性)



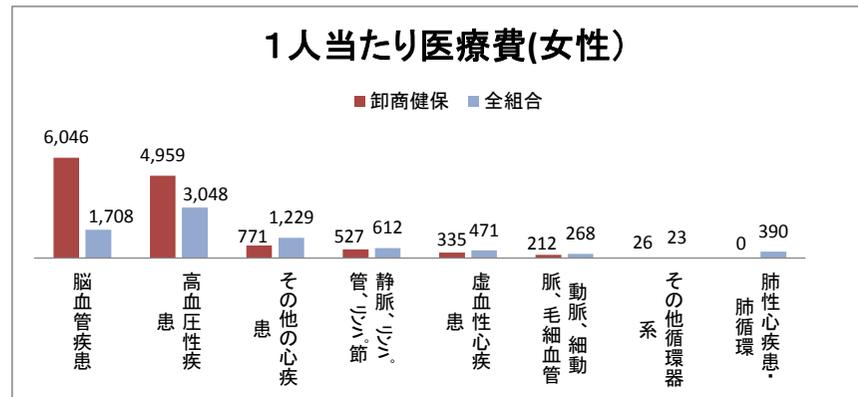
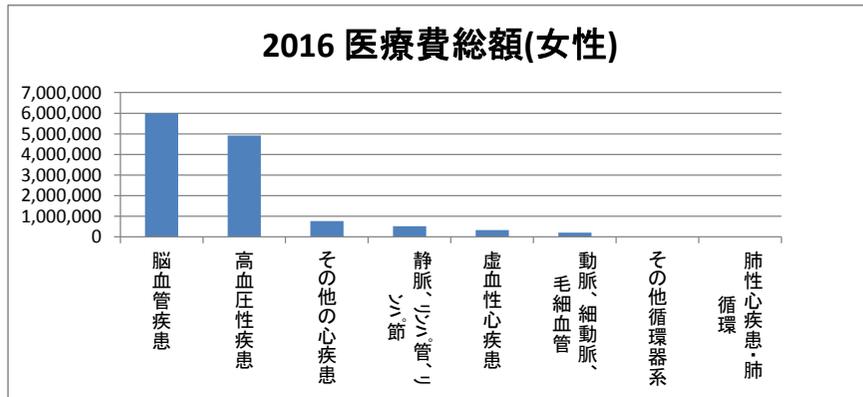
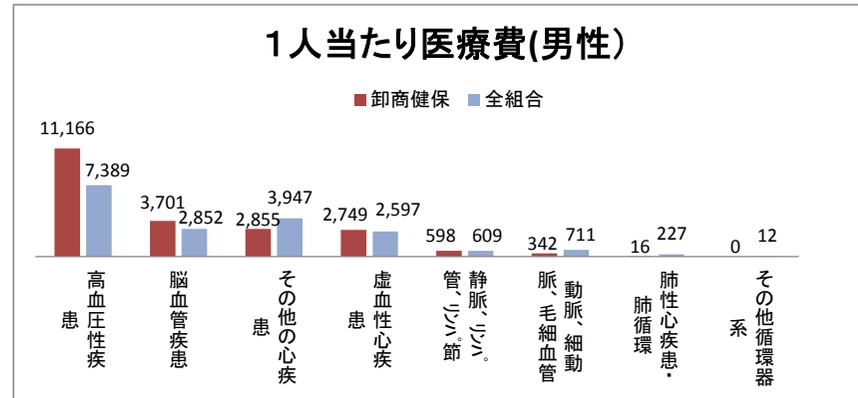
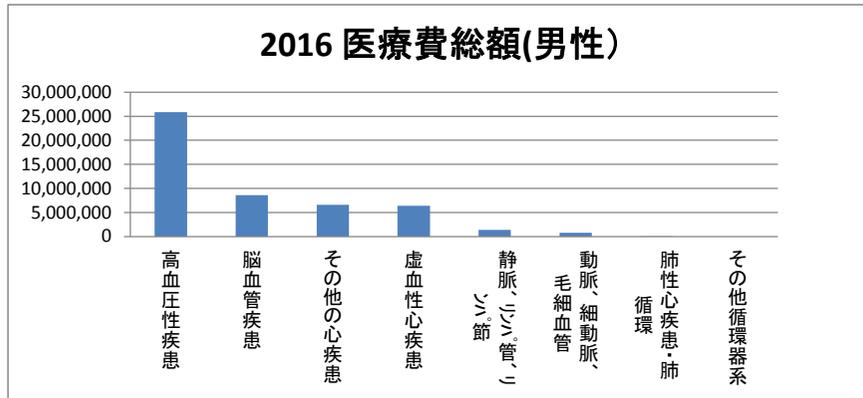
疾病分類	医療費総額	割合	1人当医療費	受診率	1件当日数	1日当医療費	件数	日数	受診者数
09:循環器系疾患	33,814,000	18.19%	14,600	965.5	1.23	12,300	2,236	2,749	2,158
02:新生物	26,309,310	14.15%	11,360	143.8	1.80	43,849	333	600	318
04:内分泌・栄養・代謝	19,357,280	10.41%	8,358	733.2	1.14	9,993	1,698	1,937	1,660
10:呼吸器系疾患	16,878,510	9.08%	7,288	737.9	1.25	7,932	1,709	2,128	1,596
14:腎尿路生殖器系疾患	14,551,080	7.83%	6,283	150.7	2.11	19,744	349	737	337
19:損傷・中毒・外因性	12,846,320	6.91%	5,547	107.5	2.41	21,446	249	599	231
11:消化器系疾患	12,306,380	6.62%	5,314	263.0	1.44	14,048	609	876	583
07:眼・付属器疾患	11,852,320	6.38%	5,118	387.3	1.18	11,203	897	1,058	878
13:筋骨格系・結合組織疾患	9,142,860	4.92%	3,948	348.4	1.70	6,659	807	1,373	788
05:精神・行動障害	6,092,890	3.28%	2,631	193.9	1.47	9,260	449	658	438
01:感染症・寄生虫	5,900,760	3.17%	2,548	205.1	1.43	8,678	475	680	462
06:神経系疾患	5,427,900	2.92%	2,344	190.4	1.25	9,833	441	552	432
12:皮膚・皮下組織疾患	4,687,180	2.52%	2,024	321.2	1.28	4,934	744	950	732
18:他に分類されないもの	3,370,470	1.81%	1,455	48.4	1.71	17,555	112	192	110
88:ウープロ病名等	1,516,980	0.82%	655	95.0	1.30	5,304	220	286	217
08:耳・乳様突起疾患	999,710	0.54%	432	56.6	1.34	5,713	131	175	131
17:先天奇形変形・染色体異常	734,060	0.39%	317	4.3	1.90	38,635	10	19	10
03:血液・造血器・免疫障害	120,670	0.06%	52	7.8	1.22	5,485	18	22	18
15:妊娠・分娩・産じょく	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16:周産期発生病態	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21:健康影響・保健サービス	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22:重症急性呼吸器症候群など	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病分類	医療費総額	割合	1人当医療費	受診率	1件当日数	1日当医療費	件数	日数	受診者数
02:新生物	26,528,870	26.20%	26,797	364.6	1.86	39,595	361	670	354
09:循環器系疾患	11,497,920	11.36%	11,614	543.4	1.47	14,518	538	792	530
15:妊娠・分娩・産じょく	9,549,340	9.43%	9,646	68.7	4.09	34,350	68	278	61
10:呼吸器系疾患	6,536,370	6.46%	6,602	1,046.5	1.28	4,941	1,036	1,323	967
04:内分泌・栄養・代謝	6,477,900	6.40%	6,543	614.1	1.26	8,468	608	765	594
01:感染症・寄生虫	6,467,600	6.39%	6,533	202.0	1.59	20,403	200	317	197
11:消化器系疾患	6,135,700	6.06%	6,198	314.1	1.37	14,369	311	427	298
07:眼・付属器疾患	5,276,440	5.21%	5,330	872.7	1.11	5,519	864	956	849
03:血液・造血器・免疫障害	4,880,170	4.82%	4,929	85.9	1.82	31,485	85	155	83
14:腎尿路生殖器系疾患	3,293,450	3.25%	3,327	376.8	1.34	6,600	373	499	366
19:損傷・中毒・外因性	3,198,160	3.16%	3,230	89.9	1.90	18,924	89	169	84
13:筋骨格系・結合組織疾患	2,956,180	2.92%	2,986	315.2	1.48	6,385	312	463	310
12:皮膚・皮下組織疾患	2,648,300	2.62%	2,675	528.3	1.19	4,265	523	621	512
05:精神・行動障害	1,583,900	1.56%	1,600	207.1	1.21	6,387	205	248	201
18:他に分類されないもの	1,474,020	1.46%	1,489	91.9	2.37	6,824	91	216	89
88:ウープロ病名等	1,344,900	1.33%	1,358	200.0	1.26	5,380	198	250	196
06:神経系疾患	724,070	0.72%	731	116.2	1.19	5,285	115	137	115
08:耳・乳様突起疾患	557,260	0.55%	563	77.8	1.22	5,928	77	94	76
16:周産期発生病態	104,650	0.10%	106	4.0	1.75	14,950	4	7	4
17:先天奇形変形・染色体異常	18,060	0.02%	18	4.0	1.00	4,515	4	4	4
21:健康影響・保健サービス	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22:重症急性呼吸器症候群など	-	-	-	-	-	-	-	-	-

男性の総医療費は、「循環器系疾患」「新生物」「内分泌・栄養・代謝」の順に多くなっている。
 女性の総医療費は、「新生物」「循環器系疾患」「妊娠・分娩・産じょく」「呼吸器系疾患」「内分泌・栄養・代謝」の順に多くなっている。
 受診者数では、男性が「循環器系疾患」「内分泌・栄養・代謝」「呼吸器系疾患」の順、
 女性が「呼吸器系疾患」「眼・付属器疾患」「内分泌・栄養・代謝」「循環器系疾患」の順に多くなっている。

2. 循環器系疾患 医療費 比較分析(比較分析表)

[2016年度計] × [強制計] × [医科計] × [男性] × [本人] × [全組合計]



男性

	医療費総額		全組合集計								
	卸商健保	全組合集計 比較指数	受診率	1件当たり		1日当たり		全組合	受診率	1件当たり	
				日数	医療費	日数	医療費			日数	医療費
高血圧性疾患	11,166	1.35	1,361.8307	1.29	6,349	7,389	933.3344	1.40	5,650		
脳血管疾患	3,701	1.16	128.2383	2.09	13,803	2,852	114.0608	1.94	12,867		
その他の心疾患	2,855	0.63	276.3385	1.50	6,874	3,947	211.6890	1.72	10,829		
虚血性心疾患	2,749	0.92	187.3921	1.29	11,327	2,597	160.3192	1.69	9,583		
静脈、リンパ管、リンパ節	598	0.93	69.5164	1.35	6,384	609	58.3598	1.88	5,565		
動脈、細動脈、毛細血管	342	0.41	58.2902	2.99	1,963	711	68.7005	1.96	5,291		
肺性心疾患・肺循環	16	0.07	4.3178	1.60	2,318	227	4.3394	2.30	22,686		
その他循環器系	0	0.00	0.0000	-	-	12	2.1438	3.96	1,364		

最も医療費が多い「循環器系疾患」の内訳をみると、男性は医療費総額で「高血圧性疾患」「脳血管疾患」「その他の心疾患」「虚血性心疾患」の順に多く、女性は「脳血管疾患」「高血圧性疾患」「その他の心疾患」の順に多くなっている。

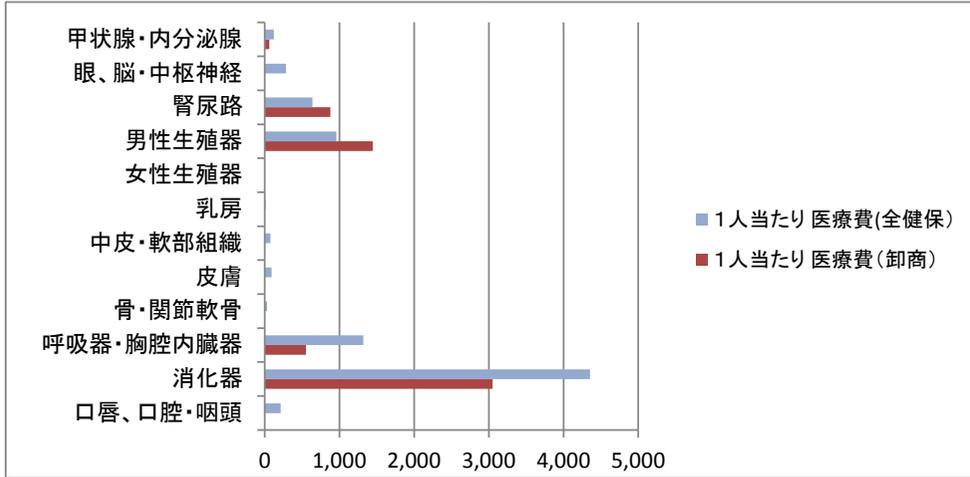
1人当たり医療費を全組合と比較すると、「脳血管疾患」「高血圧性疾患」が当健保で男女とも高くなっている。

女性

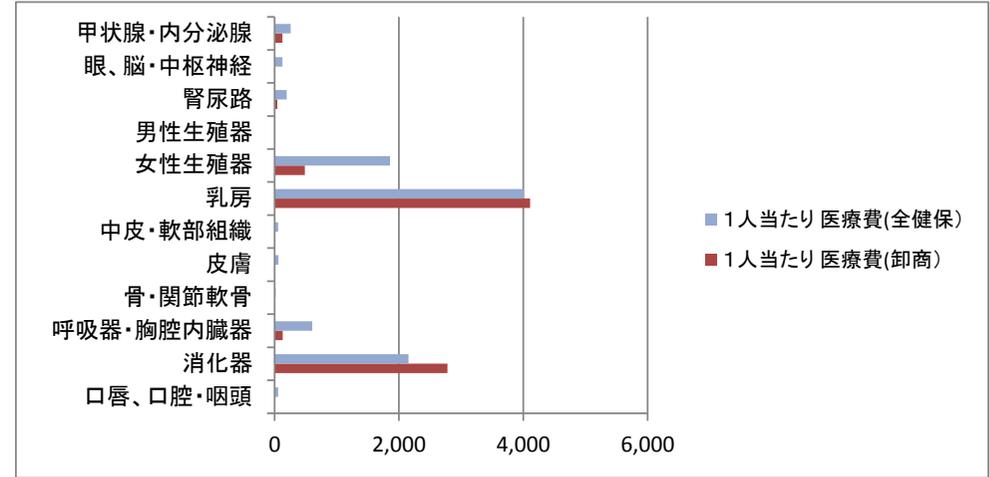
	医療費総額		全組合集計								
	卸商健保	全組合集計 比較指数	受診率	1件当たり		1日当たり		全組合	受診率	1件当たり	
				日数	医療費	日数	医療費			日数	医療費
脳血管疾患	6,046	3.46	68.6869	3.59	24,532	1,708	63.2301	1.83	14,761		
高血圧性疾患	4,959	1.62	656.5657	1.30	5,796	3,048	433.5772	1.41	4,990		
その他の心疾患	771	0.63	112.1212	1.69	4,061	1,229	108.9982	1.74	6,467		
静脈、リンパ管、リンパ節	527	0.85	73.7374	1.55	4,614	612	64.9539	1.88	5,000		
虚血性心疾患	335	0.71	59.5960	1.34	4,199	471	61.7736	1.66	4,592		
動脈、細動脈、毛細血管	212	0.78	46.4646	1.20	3,809	268	45.3727	1.74	3,386		
その他循環器系	26	1.15	4.0404	1.25	5,138	23	5.1770	1.98	2,204		
肺性心疾患・肺循環	0	0.00	0.0000	-	-	390	4.0710	2.44	39,388		

3. 悪性新生物 1人当たり医療費比較 2016

被保険者(男性)



被保険者(女性)



[2016年度計] × [強制計] × [医科計] × [男性] × [本人] × [全組合計]
男性

悪性新生物	医療費総額	1人当たり 医療費(卸商)	受診率	1件当たり 日数	1日当たり 医療費	全 組 合 集 計			
						1人当たり 医療費(全健保)	受診率	1件当たり 日数	1日当たり 医療費
消化器	7,068,700	3,052	120.8981	1.84	13,699	4,355	120.5196	2.03	17,810
男性生殖器	3,347,060	1,445	63.4715	1.52	15,009	960	39.2140	1.69	14,493
腎尿路	2,033,690	878	20.7254	1.75	24,211	639	17.9072	2.09	17,065
呼吸器・胸腔内臓器	1,279,260	552	18.1347	2.00	15,229	1,320	24.8591	2.38	22,271
甲状腺・内分泌腺	146,170	63	3.0225	1.43	14,617	121	4.5203	1.74	15,476
中皮・軟部組織	10,500	5	0.4318	2.00	5,250	76	1.0854	3.39	20,728
口唇、口腔・咽頭	8,490	4	1.2953	3.33	849	215	2.7903	3.53	21,788
皮膚	4,040	2	0.4318	1.00	4,040	91	1.9593	2.34	19,791
乳房	0	0	0.0000	—	—	12	0.2782	1.90	21,917
女性生殖器	0	0	0.0000	—	—	2	0.1262	1.98	8,387
骨・関節軟骨	—	—	—	—	—	29	0.3437	3.65	22,987
眼、脳・中枢神経	—	—	—	—	—	286	1.0321	4.31	64,288

悪性新生物の一人当たりの医療費の内訳をみると、男性では「消化器」「男性生殖器」「腎尿路」「呼吸器」の順で、女性では「乳房」「消化器」「女性生殖器」の順となっている。

悪性新生物については、早期発見し重症化する前に治療開始することが可能なものが多く、対策としてはがん検診の受診率を上げ、要精検者を確実に精検につなげることが重要である。

[2016年度計] × [強制計] × [医科計] × [女性] × [本人] × [全組合計]
女性

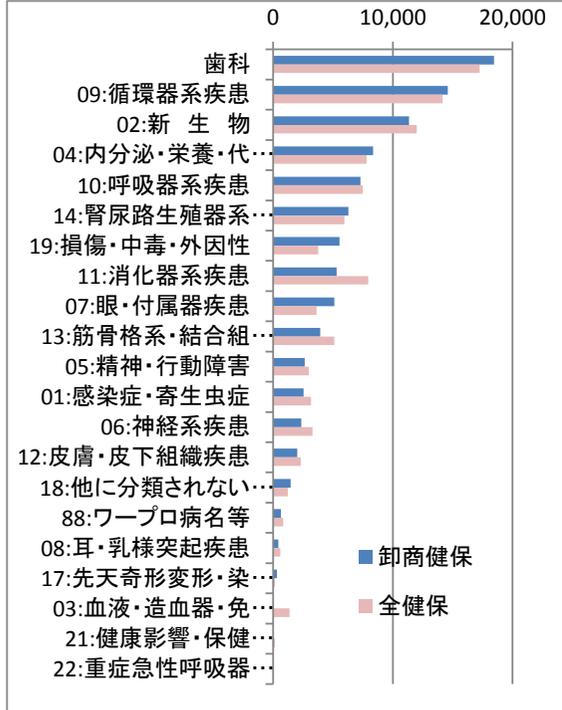
悪性新生物	医療費総額	1人当たり 医療費(卸商)	受診率	1件当たり 日数	1日当たり 医療費	全 組 合 集 計			
						1人当たり 医療費(全健保)	受診率	1件当たり 日数	1日当たり 医療費
乳房	4,069,460	4,111	38.3838	2.21	48,446	4,009	70.2210	1.90	30,056
消化器	2,752,690	2,780	93.9394	1.57	18,854	2,154	81.4312	1.92	13,754
女性生殖器	483,320	488	52.5253	1.75	5,311	1,857	77.5672	1.86	12,847
呼吸器・胸腔内臓器	126,350	128	15.1515	1.27	6,650	603	14.8795	2.06	19,667
甲状腺・内分泌腺	123,580	125	16.1616	1.06	7,269	257	12.9750	1.55	12,738
腎尿路	40,800	41	8.0808	1.25	4,080	196	10.0803	1.84	10,576
皮膚	0	0	0.0000	—	—	63	2.2451	2.08	13,499
中皮・軟部組織	0	0	0.0000	—	—	57	1.0557	3.32	16,303
男性生殖器	0	0	0.0000	—	—	0	0.0227	1.46	5,388
口唇、口腔・咽頭	0	0	0.0000	—	—	55	0.9997	2.82	19,346
骨・関節軟骨	—	—	—	—	—	16	0.2717	3.07	18,838
眼、脳・中枢神経	—	—	—	—	—	126	0.6017	3.94	53,083

4. 1人当たり医療費 全組合比較 2016

[2016年度計] × [強制計] × [医科計] × [疾病19分類] × [男性] × [本人] × [全組合計]

男性

	卸商健保	全健保
歯科	18,461	17,248
09:循環器系疾患	14,600	14,160
02:新生物	11,360	12,001
04:内分泌・栄養・代謝疾患	8,358	7,809
10:呼吸器系疾患	7,288	7,484
14:腎尿路生殖器系疾患	6,283	5,955
19:損傷・中毒・外因性	5,547	3,771
11:消化器系疾患	5,314	7,937
07:眼・付属器疾患	5,118	3,633
13:筋骨格系・結合組織疾患	3,948	5,122
05:精神・行動障害	2,631	2,981
01:感染症・寄生虫症	2,548	3,172
06:神経系疾患	2,344	3,281
12:皮膚・皮下組織疾患	2,024	2,308
18:他に分類されないもの	1,455	1,224
88:ワープ口病名等	655	847
08:耳・乳様突起疾患	432	593
17:先天奇形変形・染色体異	317	156
03:血液・造血器・免疫障害	52	1,363
21:健康影響・保健サービス	0	133
22:重症急性呼吸器症候群な	0	2



[2016年度計] × [強制計] × [医科計] × [疾病19分類] × [女性] × [本人] × [全組合計]

女性

	卸商健保	全健保
02:新生物	26,797	17,389
歯科	20,905	18,822
09:循環器系疾患	11,614	5,992
15:妊娠・分娩・産じょく	9,646	4,821
10:呼吸器系疾患	6,602	8,512
04:内分泌・栄養・代謝疾患	6,543	6,069
01:感染症・寄生虫症	6,533	2,765
11:消化器系疾患	6,198	5,564
07:眼・付属器疾患	5,330	3,988
03:血液・造血器・免疫障害	4,929	1,094
14:腎尿路生殖器系疾患	3,327	5,979
19:損傷・中毒・外因性	3,230	2,823
13:筋骨格系・結合組織疾患	2,986	6,419
12:皮膚・皮下組織疾患	2,675	3,161
05:精神・行動障害	1,600	2,462
18:他に分類されないもの	1,489	1,472
88:ワープ口病名等	1,358	1,203
06:神経系疾患	731	1,745
08:耳・乳様突起疾患	563	786
16:周産期発生病態	106	186
17:先天奇形変形・染色体異	18	206
21:健康影響・保健サービス	0	83
22:重症急性呼吸器症候群な	0	1

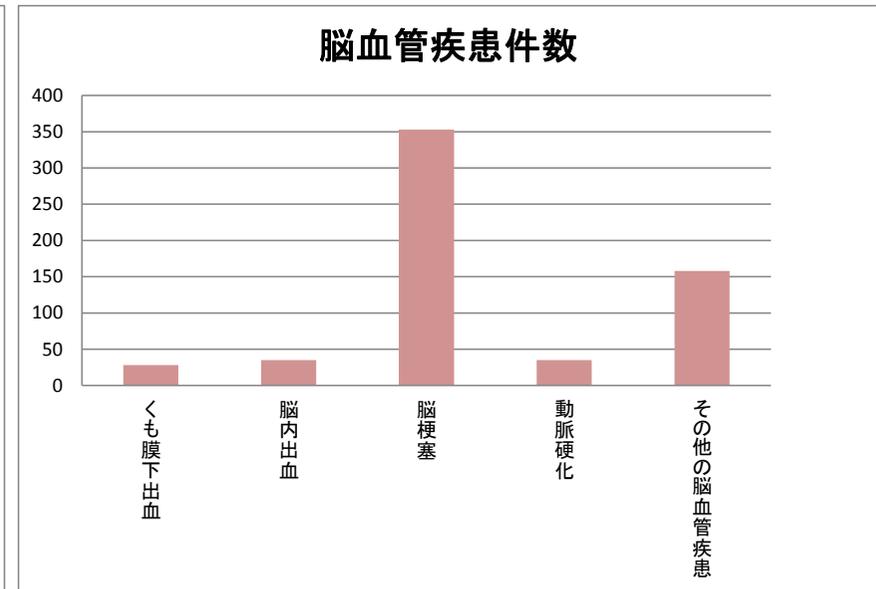
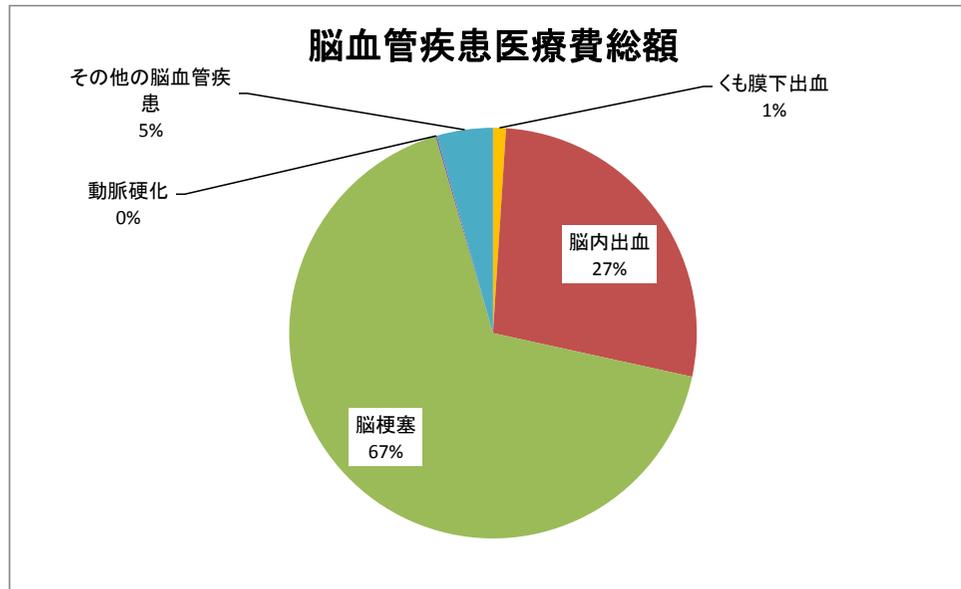


1人当たり医療費に歯科も加えて比較すると、男性は「歯科」「循環器系疾患」「新生物」「内分泌・栄養・代謝」の順に多い。
 女性は「新生物」「歯科」「循環器系疾患」「妊娠・分娩・産じょく」の順に多かった。
 口腔歯科に対する取り組みも今後必要と考えられる。

5. 疾病分類別医療費(脳血管疾患) 2016

[診療年月計]×[強制+任継計]×[医科計]×[疾病19分類]×[男女計]×[本人家族計]

	医療費総額	医療費割合	1人当たり医療費	受診率	1件当たり日数	1日当たり医療費	件数	日数	受診者数
くも膜下出血	224,540	0.0003	37	4.5752	1	8,019	28	28	17
脳内出血	6,019,700	0.0074	984	5.719	7.17	23,983	35	251	19
脳梗塞	14,732,590	0.0182	2,407	57.6797	2.38	17,560	353	839	104
動脈硬化	27,680	0	5	5.719	1.49	532	35	52	16
その他の脳血管疾患	973,430	0.0012	159	25.817	1.28	4,795	158	203	70

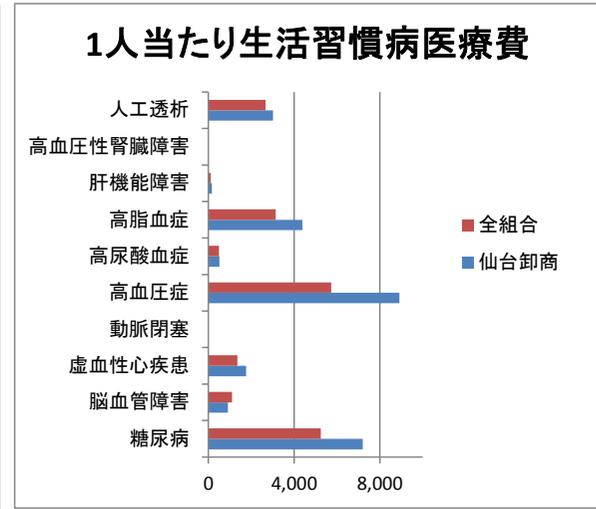
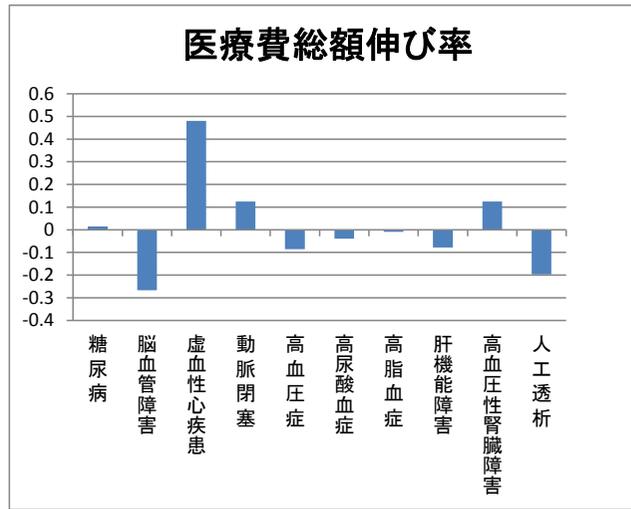
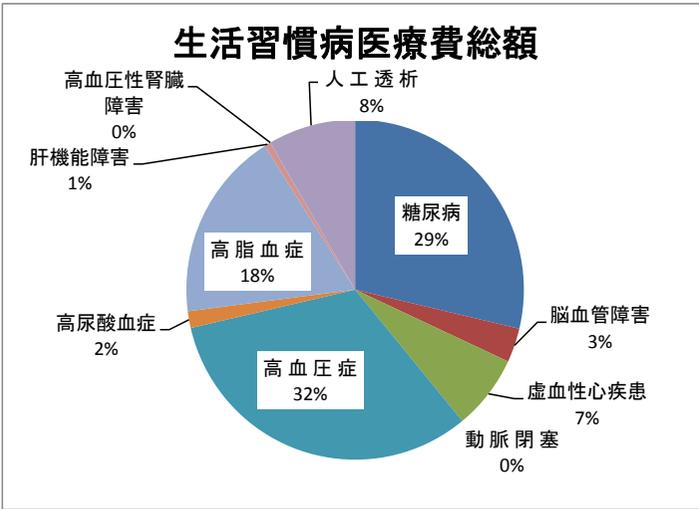


脳血管疾患の内訳について医療費総額で見ると、脳梗塞が67%、脳出血が27%2つで9割を占めている。

脳梗塞発症の原因となる高血圧などの循環器系や高脂血症や糖尿病などの疾患をしっかりと予防することが重要で、そのために特定健診受診率向上と保健指導が必要な場合に確実に保健指導に結びつける必要がある。

治療の必要があれば確実に治療を受け、合わせて生活習慣の見直しを行い、重症化を予防する必要がある。

6. 生活習慣病医療費の内訳 2016



[診療年月計] × [強制+任継計] × [医科計] × [男女計] × [本人家族計]
生活習慣病医療費 2016年度

疾患名	医療費総額	1人当医療費	組合計	受診率	1件当日数	1日当医療費	
糖尿病	34,203,580	5589	1	553.4314	1.4	7228	
再掲	インスリン治療	8,760,110	1431	1	44.4444	1.3	24746
	腎臓障害	140,650	23	1	31.3725	1.42	517
	網膜症	1,053,050	172	1	24.183	1.27	5601
	神経障害	40,060	7	1	3.4314	1.81	1054
脳血管障害	3,872,490	633	1	39.5425	1.73	9264	
虚血性心疾患	8,466,480	1383	1	102.451	1.38	9754	
動脈閉塞	90	0	1	0.1634	1	90	
高血圧症	38,534,980	6297	1	844.7712	1.3	5745	
高尿酸血症	1,897,000	310	1	144.6078	1.4	1530	
高脂血症	21,498,770	3513	1	794.281	1.27	3475	
肝機能障害	737,020	120	1	149.0196	1.39	581	
高血圧性腎臓障害	4,950	1	1	2.451	1.53	215	
人工透析	9,983,610	1631	1	3.7582	13.22	32841	

伸び率(対前年同月)

疾患名	医療費総額	1人当医療費	受診率	1件当日数	1日当医療費
糖尿病	1.49%	3.14%	3.30%	-1.41%	1.75%
再掲	インスリン治療	-1.42%	0.14%	8.39%	-5.11%
	腎臓障害	-3.40%	0.00%	0.57%	-1.39%
	網膜症	-6.24%	-4.97%	-1.70%	8.55%
	神経障害	13.07%	16.67%	-7.22%	66.06%
脳血管障害	-26.64%	-25.44%	-9.59%	0.58%	
虚血性心疾患	48.02%	50.33%	-4.33%	-4.17%	
動脈閉塞	12.50%	—	1.62%	0.00%	
高血圧症	-8.54%	-7.06%	-1.30%	-1.52%	
高尿酸血症	-3.96%	-2.52%	-10.16%	-9.09%	
高脂血症	-0.85%	0.75%	1.62%	-5.93%	
肝機能障害	-7.80%	-6.98%	2.74%	2.96%	
高血圧性腎臓障害	12.50%	0.00%	-4.73%	-15.47%	
人工透析	-19.71%	-18.41%	-19.41%	8.01%	
再掲	糖尿病	—	—	—	—
	高血圧	-15.13%	-13.69%	-19.41%	8.01%

生活習慣病1人当たり医療費 2016

疾患名	仙台卸商	全組合
糖尿病	7,209	5,251
脳血管障害	909	1,107
虚血性心疾患	1,758	1,351
動脈閉塞	0	2
高血圧症	8,910	5,737
高尿酸血症	521	500
高脂血症	4,385	3,146
肝機能障害	162	109
高血圧性腎臓障害	0	3
人工透析	3,020	2,666

保健事業の取り組みにより予防可能かどうかの視点から、生活習慣病に着目して分析すると、総医療費は「高血圧症」「糖尿病」「高脂血症」の順に多い。

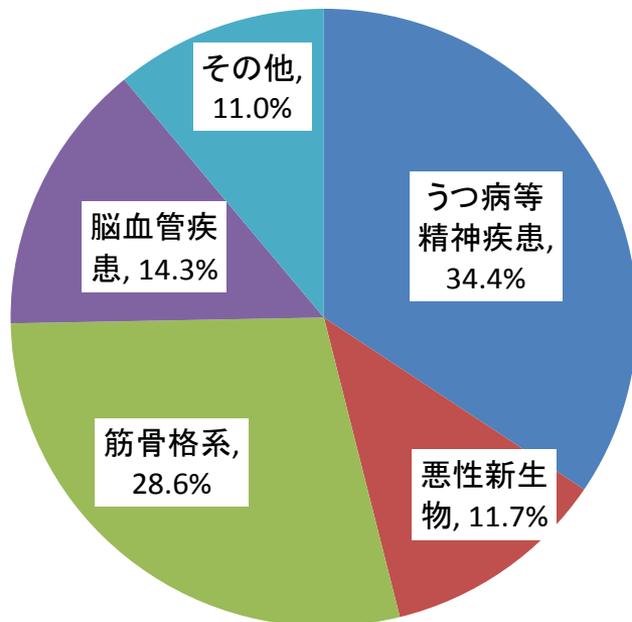
医療費の伸び率をみると、虚血性心疾患の伸びが大きかった。

1人当たりで見ると、「高血圧疾患」が特に多く、次いで「糖尿病」「高脂血症」「人工透析」「虚血性心疾患」の順に多かった。

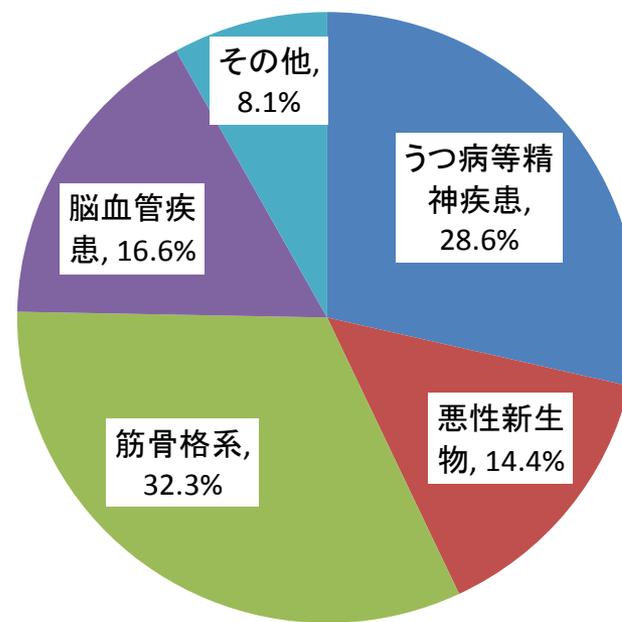
これらはいずれも全組合と比べ高い傾向にあった。今後は「循環器疾患」と「糖尿病」の重症化予防をさらに推進する必要がある。

7. 傷病手当金件数・金額割合 2016

件数割合



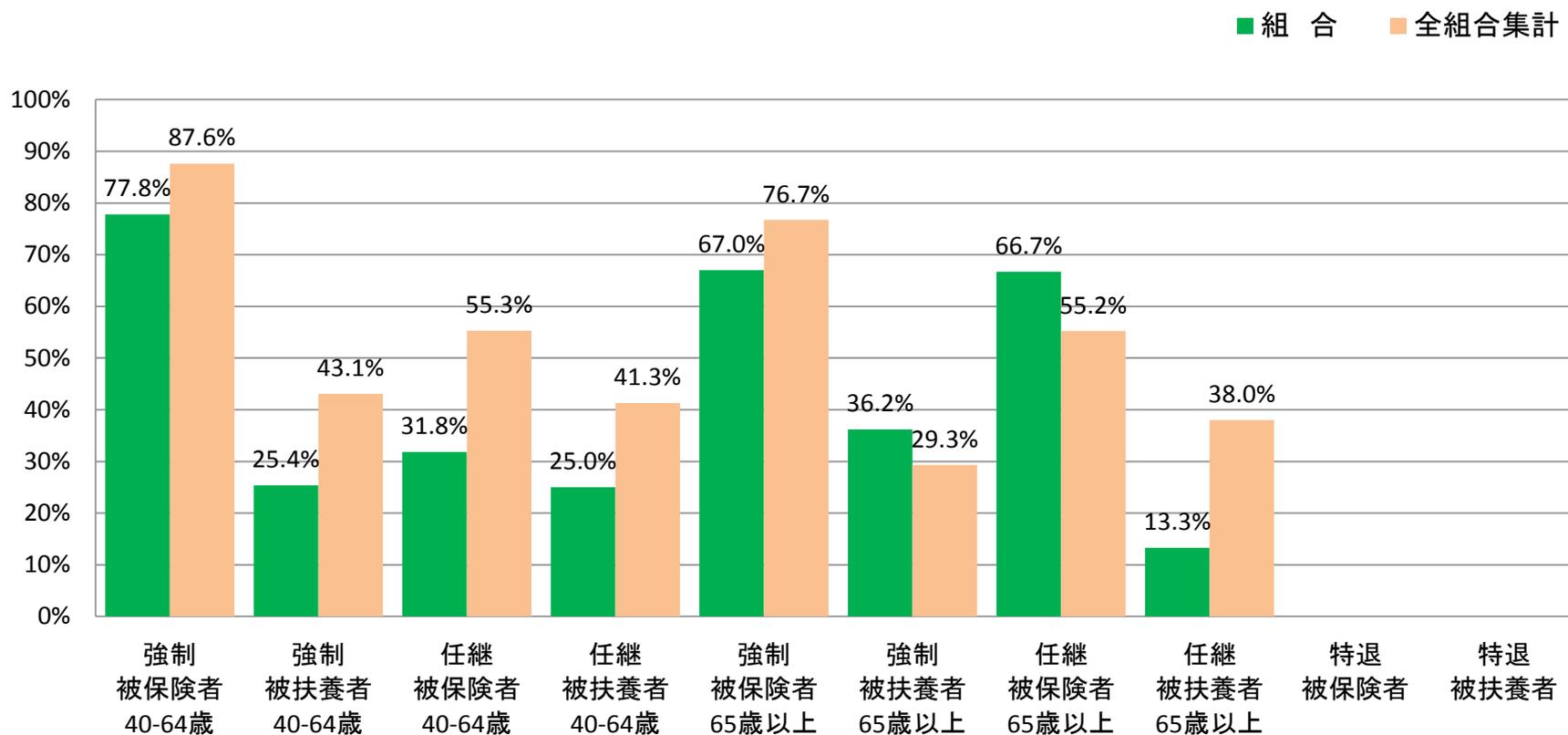
金額割合



傷病手当金の2016年の実績154件のうち、最も割合の高かったのはうつ病等の精神疾患で次いで怪我やヘルニアなどの筋骨格系の傷病であった。うつ病等の精神疾患では支給期間が長期に亘るケースが多く散見される。

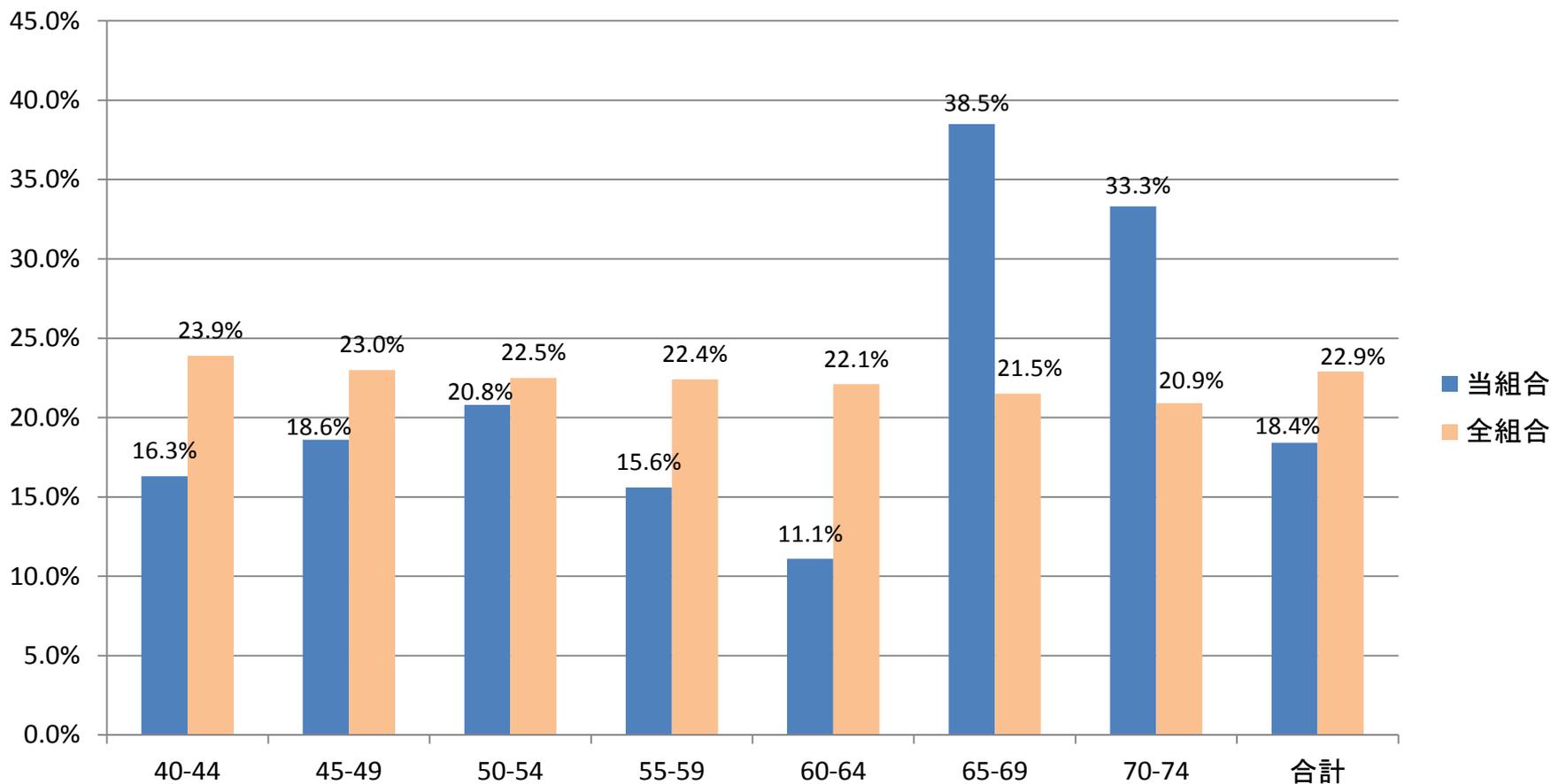
金額割合では、筋骨格系の傷病が最も割合が高くなっている。これは、比較的高年齢層が支給対象となっていることに起因している。

8. 特定健診受診率比較 2015



2015年度の年齢階層別の特定健診受診率を全組合と比較すると、65歳以上被扶養者と65歳以上任継被保険者を除き、当組合が低くなっている。特に人数の多い40-64歳被扶養者が約18%低く、全体の受診率にも大きく影響していることから、この層に対して受診を促進させる取り組みが必要となっている。

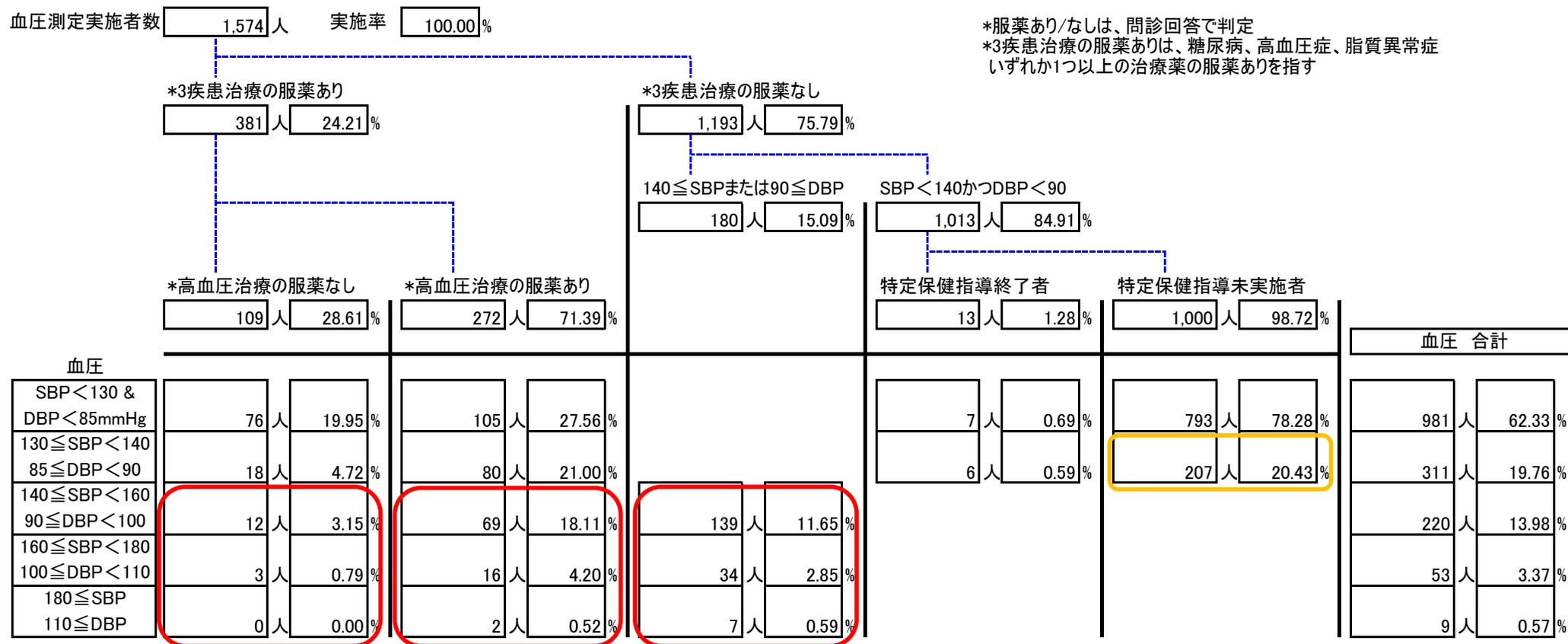
9. 特定保健指導対象者減少率 2015



特定保健指導対象者の減少率は、65～69歳と70～74歳を除き全国平均を下回っている。特定保健指導の実施率と密接な関連が見受けられ、保健指導の実施率の向上を含む効果的な取り組みの継続が必要と考えられる。

10.脳卒中・心筋梗塞リスクフローチャート(集計表)

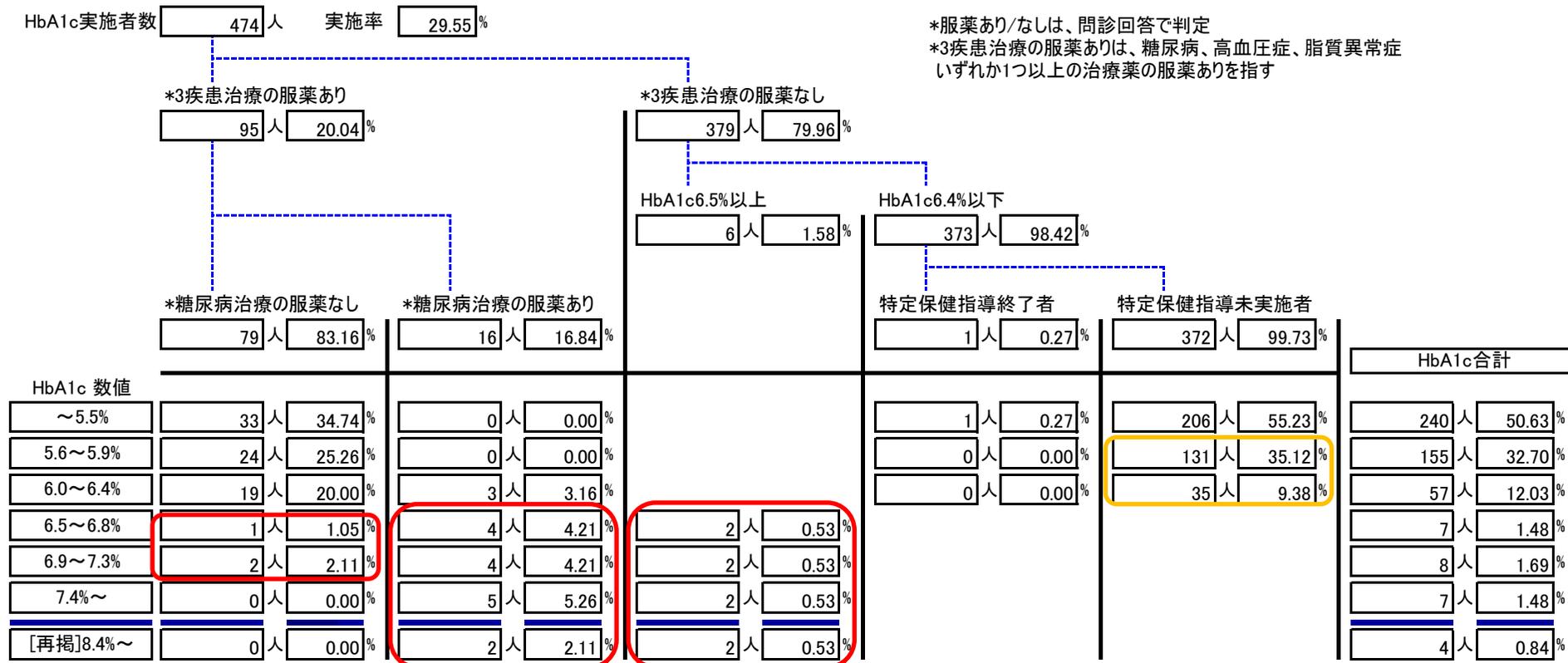
[強制計] × [全員]



- ・糖尿病・脂質異常症いずれか1つ以上の内服治療中だが高血圧症では内服治療を受けていない者で、血圧が受診勧奨判定値以上の者が存在する。
- ・糖尿病・高血圧症・脂質異常症いずれも内服治療を受けていない者で、血圧値が受診勧奨判定値以上の者が多数存在する。
- ・高血圧症で内服治療中だが、血圧値が受診勧奨判定値以上の者が一定数存在する。
- ・糖尿病・高血圧症・脂質異常症いずれも内服治療を受けていない者かつ特定保健指導未実施者で、血圧値が保健指導判定値以上の者が多数存在する。

11.糖尿病リスクフローチャート(集計表)

[強制+任継続] × [全員]



*服薬あり/なしは、問診回答で判定
 *3疾患治療の服薬ありは、糖尿病、高血圧症、脂質異常症
 いずれか1つ以上の治療薬の服薬ありを指す

- ・糖尿病・高血圧症・脂質異常症いずれも内服治療を受けていない者で、血糖値が受診勧奨判定値以上の者が存在する。
- ・高血圧症・脂質異常症いずれか1つ以上の内服治療を受けている者でかつ糖尿病で内服治療を受けていない者で、血糖値が受診勧奨判定値以上の者が存在する。
- ・糖尿病で内服治療を受けている者で、血糖値が受診勧奨判定値以上の者が存在する。
- ・糖尿病・高血圧症・脂質異常症いずれの内服治療を受けていない者でかつ特定保健指導未実施者で、血糖値が保健指導判定値以上の者が多数存在する。

STEP 2 健康課題の抽出

No.	STEP1 対応項目	基本分析による現状把握から見える主な健康課題		対策の方向性	優先すべき 課題
1	ア	男性の総医療費は、「循環器系疾患」「新生物」「内分泌・栄養・代謝」の順、女性の総医療費は、「新生物」「循環器系疾患」「妊娠・分娩・産じょく」「呼吸器系疾患」「内分泌・栄養・代謝」の順に多い。 受診者数では、男性が「循環器系疾患」「内分泌・栄養・代謝」「呼吸器系疾患」の順、女性が「呼吸器系疾患」「眼・付属器疾患」「内分泌・栄養・代謝」「呼吸器系疾患」の順に多い。	➔	循環器系疾患・がん・糖尿病の多くは予防可能であり、禁煙・多量飲酒・食事・運動などの生活習慣改善により、発症を防ぐことを目指す。	
2	イ	最も医療費が多い「循環器系疾患」の内訳をみると、男性は医療費総額で「高血圧性疾患」「脳血管疾患」「その他の心疾患」「虚血性心疾患」の順、女性は「脳血管疾患」「高血圧性疾患」「その他の心疾患」の順に多い。 1人当たり医療費を全組合と比較すると、「脳血管疾患」「高血圧性疾患」が当組合で男女とも高い。	➔	高血圧と循環器系疾患には関連があり、軽度異常であってもそのリスクは上昇することから正常高値・軽度異常に対しても生活習慣改善による発症予防が重要である。 健診結果に基づくそれぞれのリスクに応じた情報提供を検討する。 高血圧の要因として喫煙・ストレスが関連しており、禁煙を推奨しストレスを軽減する取り組みも必要と考えられる。	✓
3	エ	1人当たり医療費に「歯科」も加えて比較すると、男性は「歯科」「循環器系疾患」「新生物」「内分泌・栄養・代謝」の順、女性は「新生物」「歯科」「循環器系疾患」「妊娠・分娩・産じょく」の順に多かった。	➔	口腔歯科の健康状態改善に向けての取り組みが必要である。啓発のための情報提供や口腔歯科健診の実施等が考えられる。	
4	カ	保健事業の取り組みにより予防可能かどうかの観点から、生活習慣病に着目して分析すると、総医療費は「高血圧症」「糖尿病」「高脂血症」の順に多い。 医療費の伸び率でみると、「虚血性心疾患」の伸び率が大きい。1人当たり医療費でみると「高血圧性疾患」が特に多く、「糖尿病」「高脂血症」「人工透析」「虚血性心疾患」の順に多かった。これらはいずれも全組合と比べ高い傾向があった。	➔	「虚血性心疾患」は総コレステロール高値でHDLコレステロールが低い群は発症率が高く、内臓脂肪型肥満は高血圧・高血糖・脂質異常を招くため、これらのリスクに対応した取り組みが重要である。 特に減量は、改善に非常に効果的であり、取り組みの成果が期待できる。	
5	ウ	悪性新生物の1人当たり医療費の内訳をみると、男性では「消化器」「男性生殖器」「腎尿路」「呼吸器」の順、女性では「乳房」「消化器」「女性生殖器」の順となっている。	➔	悪性新生物については、早期発見し重症化する前に治療開始することが可能なものも多く、対策としてはがん検診の受診率を上げ、要精検者を確実に精密検査につなげることが重要である。	
6	オ	脳血管疾患の内訳について医療費総額でみると、「脳梗塞」が67%、「脳出血」が27%でこの2つで9割を占めている。	➔	脳梗塞発症の原因となる高血圧などの循環器系や高脂血症、糖尿病などの疾患をしっかりと予防することが重要で、そのために特定健診受診率向上と保健指導が必要な場合に確実に保健指導に結び付ける必要がある。 治療の必要があれば確実に治療を受け、合わせて生活習慣の見直しを行い、重症化を予防する。	
7	キ	傷病手当金のH28実績で件数の割合が高かったのは、うつ病等の精神疾患で34%、次いでけがやヘルニア等の筋骨格系28.6%であった。うつ病等の精神疾患では支給期間が長期に亘るケースが多く散見される。 金額の割合では、筋骨格系が32.3%で最も多くなっている。これは、比較的高年齢層が対象となっていることに起因している。	➔	うつ病等のメンタル不調は、休業による損失よりも出社できていても生産性の低下による損失の方が大きく、対策が必要である。 面談等は希望しない者も多く、効果的な取り組みを検討する。	

8	ク	年齢階層別の特定健診受診率を全組合と比較すると、65歳以上被扶養者と65歳以上任継被保険者を除き、当組合が下回っている。特に人数の多い40～64歳被扶養者が約18%と低く、全体の受診率に大きく影響していることから、この層に対して受診促進の取り組みが必要となっている。	➔	健診機会のさらなる充実と特定健診時に受けられる検査項目の追加など受診しやすい・受診したくなるよう対策を講じる。 未受診者に対しての受診勧奨の取り組みについても検討する。	✓
9	ケ	特定保健指導対象者の減少率は、65～69歳と70～74歳を除き全組合を下回っている。特定保健指導実施率の低さによるものであり、保健指導の実施率の向上を含む効果的な取り組みの継続が必要と考えられる。	➔	特定保健指導の実施について、事業主の理解と協力のもと事業所単位での実施等より一層の協働を目指す。 健診受診当日の初回面談を一部健診機関から導入し順次拡大を図る。	✓
10	コ	糖尿病・脂質異常症のいずれか1つ以上を内服治療中だが、高血圧症は内服治療をしていない者で、血圧値が受診勧奨判定以上の者が存在する。 糖尿病・高血圧症・脂質異常症いずれも内服治療を受けていない者で、血圧値が受診勧奨判定値以上の者が多数存在する。 糖尿病・高血圧症・脂質異常症いずれも内服治療を受けていない者でかつ特定保健指導未実施者で、血圧値が保健指導判定値以上の者が多数存在する。 高血圧症で内服治療中だが、血圧値が保健指導判定値以上の者が多数存在する。	➔	循環器系疾患の発症予防・重症化予防の対策が必要である。軽度異常の者、治療中の者、治療が必要の者それぞれの状態に対応した取り組みを検討する。対象者が自身の健康リスクを健診結果等から正しく認識できていないことも考えられ、効果的な方法を模索し実施したい。	
11	サ	糖尿病・高血圧症・脂質異常症の内服治療を受けていない者で、血糖値が受診勧奨判定値以上の者が存在する。 高血圧症・脂質異常症いずれか1つ以上の内服治療を受けている者で糖尿病の内服治療を受けていない者で、血糖値が受診勧奨判定値以上の者が存在する。 糖尿病・高血圧症・脂質異常症の内服治療を受けていない者でかつ特定保健指導未実施者で、血糖値が保健指導判定値以上の者が多数存在する。 糖尿病で内服治療を受けている者で、血糖値が受診勧奨判定値以上の者が存在する。	➔	糖尿病及び合併症の発症予防・重症化予防の対策が必要である。軽度異常の者、治療中の者、治療が必要の者それぞれの状態に対応した取り組みを検討する。対象者が自身の健康リスクを健診結果等から正しく認識できていないことも考えられ、効果的な方法を模索し実施したい。	

基本情報

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	小規模な健康保険組合(被保険者3千3百人、加入者数6千人弱)である。 主な業種は卸売業で、職種は営業・事務・製造・配送・販売など多岐に亘っている。 一事業所当たりの被保険者数は約45人、事業所規模は1桁から700人超と様々である。 ほとんどの適用事業所が卸商団地内に所在している。	➔	卸商団地内に適用事業所の多くが所在しており、被保険者に直接働きかける機会をもつことも可能。効果的・効率的に事業を実施するには、事業主との協働(コラボヘルス)が重要。事業所規模や事業所側の体制も様々であり、一律の実施は難しいため、比較的協力的な事業所から推進していく。
2	多くの事業所が県内外に支店や営業所を有している。	➔	卸商団地内で実施する健康づくり事業に直接参加できない県外等の加入者もいるため、事業の実施に際しては考慮が必要。
3	年齢分布は、最頻値が40歳代前半となっており、男性・女性とも平均年齢の上昇傾向が続いている。	➔	将来の加入者構成(10年後には50歳代が加入者構成の最頻値)を考えると、40歳代前半から重症化予防の取り組みが重要。
4	健保組合に医療専門職がない。	➔	データヘルス計画のPDCAを回す過程で定期的な効果測定を行うが、その結果に対する考察や仮設の設定に関し、専門的知識・経験を要するため、専門職の委託等による活用を検討する。

保健事業の実施状況

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	被扶養者の特定健診の受診率が目標値に達せず低調となっている。	➔	受診券配付時に、住所地近くの集合契約機関を案内しているが、それ以外の健診機会の提供、自己負担額の見直し等を検討する必要がある。 未受診者個々への受診勧奨についてもあらためて実施を検討する。
2	特定健診等の対象年齢以下の者への生活習慣病予防の支援が不足している。	➔	生活習慣病予防健診の対象年齢(35歳以上)以下の加入者は主に労働安全衛生法に基づく定期健診を受診しており、その健診結果は健保組合で受領しておらずデータ管理もされていない。35歳以下の生活習慣病高リスク者への対策を講じる必要がある。
3	特定保健指導の実施率が目標値に達せず低調となっている。	➔	各事業所の健診時期がバラバラなため、前年の健診結果により特定保健指導を実施している。特定保健指導の案内が届く頃には、健康づくり意識は低下しており、手挙げ方式ということもあり利用者は伸び悩んでいる。30年度から一部の契約健診機関において受診当日の初回面談を導入する。それを受けて実施機関の拡充を検討する。

STEP 3 保健事業の実施計画

事業全体の目的

健診をきちんと受診し、その結果を活かした健康づくりを推進する。

事業全体の目標

加入者全員が各々に必要な健診を受診する。
健診結果に応じた適切な取り組みをその対象とすべき者へもれなく実施する。

事業の一覧

職場環境の整備

加入者への意識づけ

- | | |
|---|--------------|
| 1 | 受療勧奨情報提供事業 |
| 2 | 重症化予防情報提供事業 |
| 3 | 特定保健指導利用勧奨事業 |

個別の事業

- | | |
|----|---------------|
| 1 | 特定健診 |
| 2 | 特定保健指導 |
| 3 | 新生児育児図書配付 |
| 4 | 生活習慣病予防健診 |
| 5 | 日帰り人間ドック |
| 6 | 乳がん検診 |
| 7 | 子宮がん検診 |
| 8 | PET検査 |
| 9 | 肺がん検診 |
| 10 | 脳検診 |
| 11 | インフルエンザ予防接種 |
| 12 | 肝炎ウイルス検査 |
| 13 | 前立腺がん検査 |
| 14 | ジェネリック医薬品差額通知 |
| 15 | 電話健康相談 |
| 16 | おろしまち保健室 |
| 17 | 精密検査補助事業 |

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連	
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画							
													平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度			平成35年度
アウトプット指標												アウトカム指標								
職場環境の整備																				
加入者への意識づけ																				
保健指導宣伝	4	既存	受療勧奨情報提供事業	全て	男女	35～74	加入者全員	1	イ	ス	分析システムより生活習慣病関連の健診結果が「要治療」の者を抽出。健診受診月後6カ月間、対象疾病についてのレセプトが発生していない者に受療勧奨の情報提供を実施する。	健保職員が対象者抽出・印刷・発送を担うが、情報提供の内容に関して医師(研究者)並びに保健師のアドバイスを受け作成する。	50						健診結果が「要治療」だった方が医療機関を受診し治療を開始するなど適切な取り組みを行うことを目指す。	糖尿病・脂質異常症のいずれか1つ以上を内服治療中だが、高血圧症は内服治療をしていない者で、血圧値が受診勧奨判定値以上の者が存在する。 糖尿病・高血圧症・脂質異常症いずれも内服治療を受けていない者で、血圧値が受診勧奨判定値以上の者が多数存在する。 糖尿病・高血圧症・脂質異常症いずれも内服治療を受けていない者でかつ特定保健指導未実施者で、血圧値が保健指導判定値以上の者が多数存在する。 高血圧症で内服治療中だが、血圧値が保健指導判定値以上の者が多数存在する。
													抽出した対象に対し、「高血圧」「高血糖」「脂質異常」それぞれに対応した情報提供を実施する。実施予定者数：60名	実施見込人数：60名	実施見込人数：55名	実施見込人数：55名	実施見込人数：50名	実施見込人数：50名		
対象者への情報提供実施率(【実績値】100% 【目標値】平成30年度：90% 平成31年度：90% 平成32年度：90% 平成33年度：95% 平成34年度：95% 平成35年度：95%)												医療機関への受診率(【実績値】 - 【目標値】平成30年度：20% 平成31年度：20% 平成32年度：25% 平成33年度：25% 平成34年度：30% 平成35年度：30%)					情報提供対象者のうち、6ヶ月以内に医療機関を受診する者の割合をアウトカムとする。			

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)						事業目標	健康課題との関連													
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画																				
													平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度															
アウトプット指標												アウトカム指標																					
2	既存	重症化予防情報提供事業	全て	男女	0～74	加入者全員	1	ク	ウ				195											生活習慣病関連の健診結果が「要経過観察」などの軽度異常の者を対象に注意喚起を行い、生活習慣の見直し・改善により重症化を防ぐことを目指す。	糖尿病・脂質異常症のいずれか1つ以上を内服治療中だが、高血圧症は内服治療をしていない者で、血圧値が受診勧奨判定値以上の者が多数存在する。 糖尿病・高血圧症・脂質異常症いずれも内服治療を受けていない者で、血圧値が受診勧奨判定値以上の者が多数存在する。 糖尿病・高血圧症・脂質異常症いずれも内服治療を受けていない者でかつ特定保健指導未実施者で、血圧値が保健指導判定値以上の者が多数存在する。 高血圧症で内服治療中だが、血圧値が保健指導判定値以上の者が多数存在する。								
情報提供実施率(【実績値】100% 【目標値】平成30年度:100% 平成31年度:100% 平成32年度:100% 平成33年度:100% 平成34年度:100% 平成35年度:100%)システムより抽出した対象者各々へ注意喚起の情報提供を実施する。												健診結果改善率(【実績値】 - 【目標値】平成30年度:5% 平成31年度:8% 平成32年度:10% 平成33年度:12% 平成34年度:15% 平成35年度:18%)情報提供を受けた者のうち健診結果が改善した者の割合																					
2,4	既存	特定保健指導利用勧奨事業	全て	男女	40～74	加入者全員	1	コ,シ	ス				24											特定保健指導対象者に複数年該当し未利用の者を抽出し、保健指導の利用を勧奨する。	組合職員により対象者を抽出し、主に紙媒体による情報提供を実施する。	特定保健指導対象者に該当したものの利用のない者へその意義と必要性、メリット等を情報提供し利用を促す。実施予定人数:150人	実施予定人数:140人	実施予定人数:130人	実施予定人数:120人	実施予定人数:110人	実施予定人数:100人	本事業により次回、特定保健指導対象者となった場合に保健指導を受けようとする。また、特定保健指導対象者にその対象となった意味と生活習慣改善の必要性を理解してもらう。	特定保健指導対象者の減少率は、65～69歳と70～74歳を除き全組合を下回っている。特定保健指導実施率の低さによるものであり、保健指導の実施率の向上を含む効果的な取り組みの継続が必要と考えられる。
情報提供実施人数(【実績値】152人 【目標値】平成30年度:150人 平成31年度:140人 平成32年度:130人 平成33年度:120人 平成34年度:110人 平成35年度:100人)-												情報提供受領者の保健指導実施率(【実績値】0.6% 【目標値】平成30年度:3% 平成31年度:3% 平成32年度:5% 平成33年度:5% 平成34年度:8% 平成35年度:8%)-																					
個別の事業																																	
特定健康診査事業	3	既存(法定)	特定健診	全て	男女	40～74	被扶養者、任意継続者	1	ケ,シ	ア			2,360											受診券と対象者の住所地近くの健診施設リストを同封	事業主経由で受診券・特定健診の案内を配付	被扶養者・任意継続者へ受診券・健診施設リストを配付。健診案内において特定健診受診の意義・必要性を訴え、受診を促す。受診予定人数:235人	受診予定人数:276人	受診予定人数:315人	受診予定人数:355人	受診予定人数:391人	受診予定人数:405人	受診券と対象者の住所地近辺の健診施設リストを送付することにより、利便性の向上を図り受診率向上を目指す。	年齢階層別の特定健診受診率を全組合と比較すると、65歳以上被扶養者を除き、当組合が下回っている。特に人数の多い40～64歳被扶養者が約18%と低く、全体の受診率に大きく影響していることから、この層に対して受診促進の取り組みが必要となっている。

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者			注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連		
				対象事業所	性別	年齢						実施計画								
												平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度			平成35年度	
アウトプット指標												アウトカム指標								
受診券・健診施設リストの配付(【実績値】100% 【目標値】平成30年度：100% 平成31年度：100% 平成32年度：100% 平成33年度：100% 平成34年度：100% 平成35年度：100%)												被扶養者の特定健診受診率(【実績値】-% 【目標値】平成30年度：35% 平成31年度：40% 平成32年度：45% 平成33年度：50% 平成34年度：55% 平成35年度：57%)-								
特定保健指導事業	4	既存(法定)	特定保健指導	全て	男女	40～74	加入者全員	1	ク、ケ、コ	特定保健指導対象者のうち、連続未利用者等へ文書等により利用を促す。	ア、キ、ク	就業時間中の初回面談や健診当日の初回面談について事業主に理解・協力を求める。	1,372	-	-	-	-	特定保健指導対象者に保健指導を受けてもらい、生活習慣改善により重症化予防を図る。	特定保健指導対象者の減少率は、65～69歳と70～74歳を除き全組合を下回っている。特定保健指導実施率の低さによるものであり、保健指導の実施率の向上を含む効果的な取り組みの継続が必要と考えられる。	
													一部施設での健診当日の初回面談の導入。事業所訪問等による初回面談の実施。実施予定人数：77人	実施予定人数：82人	実施予定人数：87人	実施予定人数：92人	実施予定人数：97人	実施予定人数：103人		
特定保健指導の実施率(【実績値】5% 【目標値】平成30年度：20% 平成31年度：21% 平成32年度：24% 平成33年度：25% 平成34年度：28% 平成35年度：30%)-												特定保健指導終了者の改善率(【実績値】47% 【目標値】平成30年度：50% 平成31年度：50% 平成32年度：55% 平成33年度：55% 平成34年度：60% 平成35年度：60%)終了者の体重減少者の割合								
保健指導宣伝	5	既存	新生児育児図書の配付	全て	女性	0～74	加入者全員	1	ス	出産育児一時金付加金の申請書を送付する際、本事業案内を同封。出産育児一時金付加金の支給申請書が提出された際、記載された住所へ送付する。死産の場合は対象から除外する。	ス	出版社へ対象者リストを提供し、出版社から直接対象者宅へ発送。	261	-	-	-	-	出産された加入者へ毎月発行の育児冊子を配付し、新生児育児に関する不安やストレスの軽減や適切な医療機関への受診行動につながる情報提供を行う。	該当なし(これまでの経緯等で実施する事業)	
										対象者へもれなく事業案内を行うとともに出版社から対象者リストに基づき送付する。実施予定人数：60人	実施予定人数：60人	実施予定人数：60人	実施予定人数：60人	実施予定人数：60人	実施予定人数：60人					
配付実施率(【実績値】100% 【目標値】平成30年度：100% 平成31年度：100% 平成32年度：100% 平成33年度：100% 平成34年度：100% 平成35年度：100%)												アウトカムを測定する体制・手法が未整備のため。(アウトカムは設定されていません)								
7	既存	ジェネリック医薬品差額通知	全て	男女	0～74	加入者全員	1	ス	精神疾患や悪性新生物などを対象疾病から除外。主に生活習慣病や整形外科	ス	-	医療費通知送付に合わせ、システムより一定額以上の効果額がある者へ通知を実施し後発医薬品の利用促進を図る。実施予定人数：120人	20	-	-	-	-	-	服薬している薬剤等に対応した後発医薬品があることや切り替えた場合の効果額を通知することにより、後発医薬品への切り替えを促進し医療費適正化を目指す。	該当なし(これまでの経緯等で実施する事業)
									対象者への通知実施率(【実績値】100% 【目標値】平成30年度：100% 平成31年度：100% 平成32年度：100% 平成33年度：100% 平成34年度：100% 平成35年度：100%)一定額以上の削減が見込まれる者への通知の実施率：100%	通知者のうち効果があった者の割合(【実績値】-% 【目標値】平成30年度：65% 平成31年度：65% 平成32年度：70% 平成33年度：70% 平成34年度：75% 平成35年度：75%)通知者の後発医薬品件数率、処方率、使用量率いずれかが増加した受診者	実施予定人数：120人	実施予定人数：110人	実施予定人数：110人	実施予定人数：100人	実施予定人数：100人					
6	新規	電話健康相談	全て	男女	18～(上限なし)	加入者全員	1	シ	-	ス	-	外部委託により24時間365日利用できる電話健康相談をスタートする。事業主宛案内文書・個人宛カード型案内を配付し事業の周知を図る。利用予定者数：50人	456	-	-	-	-	電話相談を利用することにより医療機関への適切な受診が図られたり、面談を利用しづらいメンタル不調者等が相談し早期対応により改善が図られ、メンタル不調等による退職者が減少し精神疾患に起因する傷病手当金の受給者数の減少を目指す。	傷病手当金のH28実績で件数の割合が高かったのは、うつ病等の精神疾患で34%、次いでけがやヘルニア等の筋骨格系28.6%であった。うつ病等の精神疾患では支給期間が長期に亘るケースが多く散見される。金額の割合では、筋骨格系が32.3%で最も多くなっている。これは、比較的高年齢層が対象となっていることに起因している。	
									事業案内の実施率(【実績値】-% 【目標値】平成30年度：90% 平成31年度：92% 平成32年度：94% 平成33年度：96% 平成34年度：98% 平成35年度：100%)	本事業による成果と判断できる手法や指標が不明。(アウトカムは設定されていません)	利用予定者数：50人	利用予定者数：50人	利用予定者数：50人	利用予定者数：50人	利用予定者数：50人					

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画						
													平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度		
アウトプット指標												アウトカム指標							
4	新規	おろしまち保健室	全て	男女	18～(上限なし)	加入者全員	1	ス			ス	156							<p>定期的に血圧計や体組成計を利用し健康づくりに活かす者が増え、また、保健師に気軽に相談できるようにする。</p> <p>特定保健指導対象者の減少率は、65～69歳と70～74歳を除き全組合を下回っている。特定保健指導実施率の低さによるものであり、保健指導の実施率の向上を含む効果的な取り組みの継続が必要と考えられる。</p> <p>糖尿病・脂質異常症のいずれか1つ以上を内服治療中だが、高血圧症は内服治療をしていない者で、血圧値が受診勧奨判定以上の者が存在する。</p> <p>糖尿病・高血圧症・脂質異常症いずれも内服治療を受けていない者で、血圧値が受診勧奨判定値以上の者が多数存在する。</p> <p>糖尿病・高血圧症・脂質異常症いずれも内服治療を受けていない者でかつ特定保健指導未実施者で、血圧値が保健指導判定値以上の者が多数存在する。</p> <p>高血圧症で内服治療中だが、血圧値が保健指導判定値以上の者が多数存在する。</p> <p>糖尿病・高血圧症・脂質異常症の内服治療を受けていない者で、血糖値が受診勧奨判定値以上の者が存在する。</p> <p>高血圧症・脂質異常症いずれか1つ以上の内服治療を受けている者で糖尿病の内服治療を受けていない者で、血糖値が受診勧奨判定値以上の者が存在する。</p> <p>糖尿病・高血圧症・脂質異常症の内服治療を受けていない者でかつ特定保健指導未実施者で、血糖値が保健指導判定値以上の者が多数存在する。</p> <p>糖尿病で内服治療を受けている者で、血糖値が受診勧奨判定値以上の者が存在する。</p>
健保連の共同設置保健師による健康相談。血圧計や体組成計も設置し、加入者が測定結果を元に相談したり、定期的に測定し健康づくりの効果測定等を行う場を目指す。 利用者数：30人(延べ)												利用者数：35人(延べ)	利用者数：40人(延べ)	利用者数：45人(延べ)	利用者数：50人(延べ)	利用者数：55人(延べ)	事業の案内実施率(【実績値】 - 【目標値】平成30年度：90% 平成31年度：90% 平成32年度：92% 平成33年度：92% 平成34年度：94% 平成35年度：94%) 開催回数(【実績値】 - 【目標値】平成30年度：12回 平成31年度：12回 平成32年度：12回 平成33年度：12回 平成34年度：12回 平成35年度：12回)月1回の開催 利用者数(【実績値】 - 【目標値】平成30年度：3人 平成31年度：5人 平成32年度：7人 平成33年度：9人 平成34年度：11人 平成35年度：13人)月平均利用者数		

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画						
													平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度		
アウトプット指標												アウトカム指標							
3	既存	日帰り人間ドック	全て	男女	40～65	加入者全員	1	ス			ス	1,560							<p>日帰り人間ドックの受診により健康状態を把握し、その結果を健康づくりに活かすとともに、がん等を早期発見早期治療するために実施する。</p> <p>最も医療費が多い「循環器系疾患」の内訳をみると、男性は医療費総額で「高血圧性疾患」「脳血管疾患」「その他の心疾患」「虚血性心疾患」の順、女性は「脳血管疾患」「高血圧性疾患」「その他の心疾患」の順に多い。</p> <p>1人当たり医療費を全組合と比較すると、「脳血管疾患」「高血圧性疾患」が当組合で男女とも高い。</p> <p>保健事業の取り組みにより予防可能かどうかの観点から、生活習慣病に着目して分析すると、総医療費は「高血圧症」「糖尿病」「高脂血症」の順に多い。医療費の伸び率をみると、「虚血性心疾患」の伸び率が大きい。1人当たり医療費をみると「高血圧性疾患」が特に多く、「糖尿病」「高脂血症」「人工透析」「虚血性心疾患」の順に多かった。これらはいずれも全組合と比べ高い傾向があった。</p> <p>悪性新生物の1人当たり医療費の内訳をみると、男性では「消化器」「男性生殖器」「腎尿路」「呼吸器」の順、女性では「乳房」「消化器」「女性生殖器」の順となっている。</p>
補助対象者への個別案内の実施率(【実績値】95% 【目標値】平成30年度：95% 平成31年度：95% 平成32年度：98% 平成33年度：98% 平成34年度：100% 平成35年度：100%)												日帰り人間ドックの受診率(【実績値】-% 【目標値】平成30年度：17% 平成31年度：18% 平成32年度：19% 平成33年度：20% 平成34年度：21% 平成35年度：22%)							
3	既存	乳がん検診	全て	女性	40～74	加入者全員	1	ウ			ス	421						<p>乳がん検診の受診促進を図り、乳がんの早期発見早期治療を目指す。</p> <p>男性の総医療費は、「循環器系疾患」「新生物」「内分泌・栄養・代謝」の順、女性の総医療費は、「新生物」「循環器系疾患」「妊娠・分娩・産じょく」「呼吸器系疾患」「内分泌・栄養・代謝」の順に多い。</p> <p>受診者数では、男性が「循環器系疾患」「内分泌・栄養・代謝」「呼吸器系疾患」の順、女性が「呼吸器系疾患」「眼・付属器疾患」「内分泌・栄養・代謝」「呼吸器系疾患」の順に多い。</p> <p>悪性新生物の1人当たり医療費の内訳をみると、男性では「消化器」「男性生殖器」「腎尿路」「呼吸器」の順、女性では「乳房」「消化器」「女性生殖器」の順となっている。</p>	
事業所への検診補助制度の情報提供実施率(【実績値】100% 【目標値】平成30年度：100% 平成31年度：100% 平成32年度：100% 平成33年度：100% 平成34年度：100% 平成35年度：100%)												乳がん検診受診率(【実績値】-% 【目標値】平成30年度：24% 平成31年度：26% 平成32年度：28% 平成33年度：30% 平成34年度：32% 平成35年度：34%)							

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画						
													平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度		
アウトプット指標												アウトカム指標							
3	既存	子宮がん検診	全て	女性	20～74	加入者全員	1	ス		キ		256						子宮がん検診の受診促進を図り、子宮がんの早期発見早期治療を目指す。	<p>男性の総医療費は、「循環器系疾患」「新生物」「内分泌・栄養・代謝」の順、女性の総医療費は、「新生物」「循環器系疾患」「妊娠・分娩・産じょく」「呼吸器系疾患」「内分泌・栄養・代謝」の順に多い。</p> <p>受診者数では、男性が「循環器系疾患」「内分泌・栄養・代謝」「呼吸器系疾患」の順、女性が「呼吸器系疾患」「眼・付属器疾患」「内分泌・栄養・代謝」「呼吸器系疾患」の順に多い。</p> <p>悪性新生物の1人当たり医療費の内訳をみると、男性では「消化器」「男性生殖器」「腎尿路」「呼吸器」の順、女性では「乳房」「消化器」「女性生殖器」の順となっている。</p>
事業所への検診補助制度の情報提供実施率(【実績値】100% 【目標値】平成30年度：100% 平成31年度：100% 平成32年度：100% 平成33年度：100% 平成34年度：100% 平成35年度：100%)												子宮がん検診受診率(【実績値】-% 【目標値】平成30年度：18% 平成31年度：19% 平成32年度：20% 平成33年度：21% 平成34年度：22% 平成35年度：23%)							
3	既存	PET検査	全て	男女	50～74	被保険者	1	ス		キ		100						PET検査受診により、がんの早期発見早期治療を目指すとともに、がん予防に関する啓発につながることを期待する。	<p>悪性新生物の1人当たり医療費の内訳をみると、男性では「消化器」「男性生殖器」「腎尿路」「呼吸器」の順、女性では「乳房」「消化器」「女性生殖器」の順となっている。</p>
補助対象者への情報提供実施率(【実績値】95% 【目標値】平成30年度：95% 平成31年度：95% 平成32年度：98% 平成33年度：98% 平成34年度：100% 平成35年度：100%)												受診者数がわずかなため。(アウトカムは設定されていません)							
3	既存	肺がん検診	全て	男女	40～74	加入者全員	1	ス		キ		63						肺がん検診受診により、がんの早期発見早期治療を目指すとともに、がん予防に関する啓発につながることを期待する。	<p>男性の総医療費は、「循環器系疾患」「新生物」「内分泌・栄養・代謝」の順、女性の総医療費は、「新生物」「循環器系疾患」「妊娠・分娩・産じょく」「呼吸器系疾患」「内分泌・栄養・代謝」の順に多い。</p> <p>受診者数では、男性が「循環器系疾患」「内分泌・栄養・代謝」「呼吸器系疾患」の順、女性が「呼吸器系疾患」「眼・付属器疾患」「内分泌・栄養・代謝」「呼吸器系疾患」の順に多い。</p> <p>悪性新生物の1人当たり医療費の内訳をみると、男性では「消化器」「男性生殖器」「腎尿路」「呼吸器」の順、女性では「乳房」「消化器」「女性生殖器」の順となっている。</p>
補助対象者への情報提供実施率(【実績値】95% 【目標値】平成30年度：95% 平成31年度：95% 平成32年度：98% 平成33年度：98% 平成34年度：100% 平成35年度：100%)												受診者数がわずかなため。(アウトカムは設定されていません)							

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者			注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連		
				対象事業所	性別	年齢						対象者	実施計画							
													平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度			平成34年度	平成35年度
アウトプット指標												アウトカム指標								
3	既存	脳検診	全て	男女	50～74	被保険者	1	ス		キ	事業所宛事業案内及び節目年齢の日帰り人間ドック補助対象者への案内等により補助制度の周知を図り受診を促す。 受診予定人数：20人	100							脳検診受診により、脳血管疾患等の早期発見早期治療を目指すとともに、脳血管疾患等の予防に関する啓発につながることを期待する。	最も医療費が多い「循環器系疾患」の内訳をみると、男性は医療費総額で「高血圧性疾患」「脳血管疾患」「その他の心疾患」「虚血性心疾患」の順、女性は「脳血管疾患」「高血圧性疾患」「その他の心疾患」の順に多い。 1人当たり医療費を全組合と比較すると、「脳血管疾患」「高血圧性疾患」が当組合で男女とも高い。 脳血管疾患の内訳について医療費総額で見ると、「脳梗塞」が67%、「脳出血」が27%でこの2つで9割を占めている。
補助対象者への情報提供実施率(【実績値】95% 【目標値】平成30年度：95% 平成31年度：95% 平成32年度：98% 平成33年度：98% 平成34年度：100% 平成35年度：100%)												受診者数がわずかなため。(アウトカムは設定されていません)								
3	既存	インフルエンザ予防接種	全て	男女	18～74	被保険者	1	ケ	団地内健診機関での接種、事業所訪問による接種、その他の医療機関での接種に対し補助を実施。	キ	団地内健診機関での接種及び事業所訪問による接種の場合、健保組合へ各々が補助金支給申請が不要となるよう医療機関と補助金について精算している。 実施予定人数：2,000人	1,300							本事業によりインフルエンザ予防接種を受けやすい環境を提供する。ワクチン接種により罹患した場合の重症化を防ぎ、休職期間の最適化や医療費適正化を目指す。	該当なし（これまでの経緯等で実施する事業）
事業所への補助制度の情報提供実施率(【実績値】100% 【目標値】平成30年度：100% 平成31年度：100% 平成32年度：100% 平成33年度：100% 平成34年度：100% 平成35年度：100%)												インフルエンザワクチン接種率(【実績値】-% 【目標値】平成30年度：40% 平成31年度：42% 平成32年度：44% 平成33年度：46% 平成34年度：48% 平成35年度：50%)								
3	既存	肝炎ウイルス検査	全て	男女	35～74	加入者全員	1	ス		キ	事業所宛事業案内及び節目年齢の日帰り人間ドック補助対象者への案内等により補助制度の周知を図り受診を促す。 受診予定人数：10人	45							肝炎ウイルス検査受診の利便性向上により受診を促し、早期発見早期治療を目指す。	該当なし（これまでの経緯等で実施する事業）
事業所への補助制度の情報提供実施率(【実績値】100% 【目標値】平成30年度：100% 平成31年度：100% 平成32年度：100% 平成33年度：100% 平成34年度：100% 平成35年度：100%)												受診者数がわずかなため、設定しないこととする。(アウトカムは設定されていません)								
3	既存	前立腺がん検査	全て	男性	50～74	加入者全員	1	ス	契約健診機関で受診する場合は、対象年齢者には予め健診項目として設定されている。	キ	事業所宛事業案内及び節目年齢の日帰り人間ドック補助対象者への案内等により補助制度の周知を図り受診を促す。 受診予定人数：350人	270							前立腺がん検査受診により、がんの早期発見早期治療を目指すとともに、がん予防に関する啓発につながることを期待する。	男性の総医療費は、「循環器系疾患」「新生物」「内分泌・栄養・代謝」の順、女性の総医療費は、「新生物」「循環器系疾患」「妊娠・分娩・産じょく」「呼吸器系疾患」「内分泌・栄養・代謝」の順に多い。 受診者数では、男性が「循環器系疾患」「内分泌・栄養・代謝」「呼吸器系疾患」の順、女性が「呼吸器系疾患」「眼・付属器疾患」「内分泌・栄養・代謝」「呼吸器系疾患」の順に多い。 悪性新生物の1人当たり医療費の内訳をみると、男性では「消化器」「男性生殖器」「腎尿路」「呼吸器」の順、女性では「乳房」「消化器」「女性生殖器」の順となっている。
事業所への補助制度の情報提供実施率(【実績値】100% 【目標値】平成30年度：100% 平成31年度：100% 平成32年度：100% 平成33年度：100% 平成34年度：100% 平成35年度：100%)												補助対象者の受診率(【実績値】-% 【目標値】平成30年度：60% 平成31年度：62% 平成32年度：64% 平成33年度：66% 平成34年度：68% 平成35年度：70%)								

